

明治四十年十二月五日發行

神奈川縣教育會雜誌

第參拾貳號





學術研究

- 農業補習學校施設に關する意見 ..... 大谷三千三氏立案 ..... 一
- 醇素に就きて ..... 高橋新太郎 ..... 五
- 水彩畫を描く方法 ..... 長谷川曉雪 ..... 七
- 救急療法 ..... 尋常高等南足柄小學 ..... 一三

教授管理

- 自修の仕方 ..... 一七

通信雜錄

- 船越實業補習學校の狀況 ..... 渡邊泰治 ..... 二一
- 足柄上郡實業教育の狀況 ..... 吉野久忠 ..... 二六
- 成功せる父兄會 ..... 濱田國藏 ..... 二八

次 目 號 本

- 大磯小學校に於ける戦死者遺族慰問會 ..... 朝倉敬之 ..... 二九
- 小學校准教員檢定試験問題 ..... 三一
- 尋常科正教員試験判定問題 ..... 三三
- 雲南紀行(第十八、十九信) ..... 雲 備 生 ..... 三七
- 上海今昔談 ..... 四山如松 ..... 四九
- 上海便り(第二信) ..... 湯 山 生 ..... 五四
- 奇特なる教員 ..... 五九
- 同窓會の活動 ..... 六〇
- 職員生徒の努力より成れる運動日覆 ..... 六〇
- 編輯所便り(つゞき) ..... 左 邊 生 ..... 六〇
- 同 ..... 新 人 ..... 六三

神奈川縣教育會雜誌 第三拾二號



農業補習學校施設に關する意見

中郡金目 農業補習學校 大谷三千三氏立案

農業補習學校の農業地方に設置すべきの必要なるは已  
 ん今日にありては研究の時代を去りて實行の時代に移  
 れり然れども其施設方法當を得ざれば折角種々成規上  
 の繁雜なる手續を盡し開核するも集りたる生徒も忽ち  
 離散し空名のみ残るの悲況に陥るや恰も掌を返すが如  
 し故に之が創設の任に當るものは苦心經營以て永續を  
 謀らざる可からず就ては聊か不肖が經驗と理想とを記  
 述して施設者の參考に供せん職務繁忙の傍筆を執りし  
 ものなれば文を飾るの暇なく文章の拙なると文字の粗  
 雜なるとは讀者の咎むるなく只其意を解し一點なりと  
 も參考に資せらるゝを得ば不肖の希望を満足するを得  
 ん。

目 次

- 第一章 設置區域
- 第二章 修業年限
- 第三章 授業期間
- 第四章 始業終業時限
- 第五章 休業日
- 第六章 教科目及程度
- 第七章 教授時間
- 第八章 修業及卒業認定
- 第九章 入學及退學
- 第十章 賞罰
- 第十一章 授業料
- 第十二章 職員
- 第十三章 生徒取締
- 第十四章 生徒募集
- 第十五章 科外講話會
- 第十六章 實習耕作
- 第十七章 評議員
- 第十八章 附屬圖書館

第一章 論 設置區域



設置區域は成るべく數區に分たず尋常小學校の通學區域に準ずるを可とす是教育の根本たる職員配置に大關係あり若し數區に分つよは職員配置上大なる不都合を生じ甲區と乙區と自然職員の人物に多少の差等を生じ且優良なる上級教員のみを以て完全の教育を施す能はず生徒の希望に公平に満足を與ふる能はず其結果衰微の原因となる恐あり余の經驗に徴すれば生徒の多少は道の遠近に關係すること少なきを以て通例尋常小學校の通學區域内よ於ては數個所に區分し設置するの必要を認めず。

### 第二章 修業年限

修業年限は授業期間に依り長短參酌すべく農業地方にては授業を一箇年通じてあすこと困難にして多く九月より四月に渡り六七箇月間の夜間を利用すること普通なれば修業年限は三箇年とすること最も適當せり二箇年にては不十分なり。

### 第三章 授業期間

授業期間は農業地方にては夏期は朝早く起き晝休を長くし夕は日没後までも仕事をなす時なるよ夜短く蚊多く授業に困難なるのみならず教師も生徒も此期間の夜業は健康に害あるを以て之を避けざる可らず又田場所

する原因となる恐あれば成るべく是を避くるを可とす

### 第六章 教科目及程度

教科目及其程度は教授時數を參酌決定すべきものにして教授時數は一週十二時が適當なれば斯る少時數にては教科目は余り復雜に増さず修身國語算術農業の四科に止むるを可とす理科に關することは農業教授の際必要なることを隨機教授せば足れり特更理科として設くる必要を認めず若し餘り教授時數の少きに關せず教科目多くするときは時間數に限あるを以て自然程度低く生徒の希望に副はざるに至る概言せば間口を餘り廣げず奥行を深くする方生徒の希望に副ひ學校を盛ならしむる要素なり。

其程度は時間の許す限り生徒の腦力の消化し得らるゝ限り成るべく高尚にして且實地に應用し得らるゝ様方針を立て教授すべし小學校と異り晩年生徒は實地の經驗も多少あれば程度の高きを好むが通常なるを以て此希望を満足せしめ倦怠の念生ぜざる様務めざれば自然欠席者増加し生徒減少し衰微に陥る恐あり此の點に就ては教授者は常に注意し生徒に満足を與ふる様務むべきなり。

### 第七章 教授時間

にては四月中旬より勞働激しくなれば夜學に困難なり又養蠶地方は其繁忙の期を避けざる可らず故に土地の情況を參酌決定すべきこと勿論あれども九月中旬より翌年四月中旬迄は多くの地方に於て夜間開校授業するに適す其他の期間即ち夜間授業せざる期間は晝間日曜日毎に午后開校授業せば學問を間斷なく繼續するの利益あり且特に此期間に於て實習耕作せば補習學校の目的を達するに於て大なる効果を奏せん。

### 第四章 始業終業時限

始業終業時限は晝夜の長短農事の繁閑に由りて參酌決定すべきこと最も適當なれば一定に規せず夜間の授業にては午後七時より十時迄の範圍内に於て時宜に由り之れを定むること適切なり而して毎夜の授業時數は二時間が適切なり日曜日授業する場合も猶二時間位に止め其他は隨意の談話及遊戯をなさしむる方却て可とす

### 第五章 休業日

休業日は夜間授業する時期に於ては小學校の休業日と同一ならしむること適切なりと雖長期の休業は成るべく避くるを可とす余の經驗にては長期の休業後は欠席者多く又多忙の収獲期年末等より却て農家の閑なる正月頃の方欠席者多きものなれば長期の休業は欠席を促

教授時間は夜業なれば毎夜二時間一週十二時間が適當なり教授時間は多き程授業進歩する様なれども人の體力には限りあり教師も生徒も晝間夫々業務に従事するものなれば夜間の執業時間餘り多きときは其晝間の本業を妨ぐるのみならず健康上にも害あるを以て二時間より増加するは不可なり。

### 第八章 修業及卒業認定

學期は授業期間の長短に係らず一箇年毎に會計年度に準じて之を定め每學期の終りには平素の成績と出席の多少を參酌して其修業及卒業を認定するを可とす故に大に勤勉出席するものは成績不真なるも修業若くは卒業せしむるを可とす晩年者には耻辱を與ふるが如きは之を避けざれば學校の隆盛覺束なし。

修業及卒業者には嚴格ある儀式を擧げ證書を與ふるを可とす斯る儀式を擧ぐるは教育を重ぜしめ補習學校の品位を高むる一方便なり又出席を獎勵する一の方便なり補習學校に入學する位のものには理想も低く思想も簡單なれば猶斯る證書を大に尊重するものなればあり。

### 第九章 入學及退學

入學者は一定の資格を定め尋常小學校卒業者及卒業せざるも學齡を超過したるものは可成入學を許可すべし



而して高等三年以上修業者は二年級に入學を許すを可  
とす即ち生徒入學資格を二種に區別し尋常卒業者及高  
等一二年修業者は一年級に入學せしめ高等小學三年修  
業又は四年卒業者は二年級に入學せしむべきなり高等  
科二年修業者を一年へ入學せしむること定むるは二  
個の大なる理由あり即高等二年修業者は未だ農學上  
於て何の智識もなければ二年に入學せしむれば教授上  
大なる不都合なり第二には地方の農業の子弟は高等卒  
業者も補習學校に集るものなれば高等二年修業以上の  
ものを二年級に入學せしむることせば二年級のみ大  
に膨張し編制上大なる不都合を生ずるは余の經驗上確  
に事實の証明する所なり。

入學退學に就ては保証人たる父兄に調印せしめ願書を  
呈出せしむるを可とすは一見余り煩雜なるが如しと雖  
も大なる理由あることにて保証人たる父兄が入學の際  
調印したる以上は自然之に伴ふて種々の責任生じ生徒  
に勉學を促し出席を獎勵するに至る故に病氣にもあら  
ずして五日以上も欠席するものあれば其都度保証人へ  
對し公文を送り出席を促し欠席者を防ぐに便宜なり又  
保証人も調印願書を呈出したる上げ輕卒に退學するも  
のを防ぐ上に於て大なる効力あり。

退學の際は保証人より願書を呈出せしむべく規定を設  
くるは必要なれども此實行は覺えなきを以て正當の事  
由なく二ヶ月以上欠席したるものは退學者と見做し除  
名するの規定を設くるを可とす。

第十章 賞罰

賞罰は困難なることなれども補習學校としては獎勵上  
可然規定を設くるの必要あり學術品行共に優等なるも  
の又精勤にして無欠席あるものは特に之を賞し品行不  
良にして改善の見返なく學校の害となるものは退學を  
命ずるの罰則を設くるを可とす然らざれば學校の威嚴  
立たず教育の價値落ち其實績上らざるに至るべし然れ  
ども如何に立派なる成規を設くるも教師其人を得ざれ  
ば成績上らざるや勿論なり補習學校は小學校と異なり  
晩年者も混じ居れば是れが教育の困難なる想像の外な  
り特に其學校長なるものは年長青年も心服する貫目あ  
る人にあらざれば教化効なく學校の規律立たず只青年  
の夜遊場所となり道徳養成所が却て不道徳製造所と化  
するに至るべし。

是に就て余の實驗を参考に記さんに金目小學校に於  
て昨年補習學校を創立し入學を大に勧誘せしかば集  
るもの百三人の多きに及びり氣鋭の青年(年齡二十才  
内外多し)

り大に改悛の狀著しく連夜更に不品行者現はれず特  
別訓戒をなす必要なく規律整肅平和に且愉快に其學  
期を終るを得たり。

酵素に就きて

高橋 新太郎

左の一篇は予が本年本縣教育會夏期講習會に於  
て演説したるものなり。

諸君。私は今數種の酵素酵素について、其の性質を簡単に  
説明しようと思ひます。酵素の研究は最近非常な進歩  
を來しました。諸君もごぞんじてせう、彼の植物の堅  
い幹にさるのこしかけといふ菌キノコが附着して居ること  
を。此のきのこは如何にして彼の堅い幹に附着するこ  
とが出来たのであらうか。もしかかる質問に接したら  
は諸君は如何なる答をなすか。これ即ち酵素について  
すこし研究したならば容易に答ふることが出来ます。  
即ち該きのこの胞子が飛び來つて幹に附着し、適當な  
る濕氣と温度とに逢へば出芽して菌系細胞とある。此  
の菌系細胞中には「プロモナー」を稱する一種の酵素が  
あつて之れを分泌して幹を組成する木質細胞を分解し

斯く多數集りしを以てなかなか勢を得られるとも  
あばれるとも初は角力を取るもあれば腕押をなすも  
あれば其勢のすさまじさ言語に斷たり之を如何にか  
して誘導教化して教育的訓練をなし秩序を重んじ規  
律を守るの良習慣を作らんとす其困難小學教育の比  
にわらず特に余の出席せざる夜に於て不品行の形跡  
著しく修身教授の際説諭訓戒度々に及びり然るに或  
夜筆にするも忌む程の大不品行の形跡ありしを以て  
如何にかして其生徒を調べ出し嚴重に處分せんと考  
へしが其何人の所行なりしか知る由なく生徒に問は  
んか互に友誼上遠慮して云はざるべしと察し白紙を  
多數準備して教室に臨み前夜の不品行の形跡を一般  
に告げ斯る悪生徒は教育の神聖を汚し他生の名譽を  
毀損するものは必ず是を根絶せざれば學問の効更に  
なし故に今夜惡逆之れを調出さざる可らず就ては白  
紙各一枚を配布すべければ皆教育の爲各自の名譽を  
保護するため其不品行者を之に記名し出せと命じ生  
徒の徳義心に訴へ無記名投票を行ひしかば忽ち二人  
の悪生徒に集まりしかば其夜二人を授業後に残し置  
き普通の説諭を超へて嚴重に叱責訓戒せしかば皆其  
心あれば其行を耻ぢ己の過を悔ひ教師を惡まず夫よ



てハドロマールとセルローセとを變化する。それから又一種の酵素チターセを分泌してセルローセを溶解し砂糖となし自分で吸収して營養となす。遂に偉大なる生殖器（即ちさるのこしかけ）を發生するに至るのである。

次に人間の唾液中にはプチアリン（ヂャスターセにあらず）といふ一種の酵素があります。これは糖化素の一種でよく澱粉を砂糖に變化する作用がある。

次に糖化素これは千八百十四年キルヒホッフ氏の發見で植物界中その分布が甚だ廣い。いやしくも澱粉の存在する所は必ず相伴つて居るといつてよい。植物体中に糖化素の存在することを實驗するには植物体の浸出液を作つてこれにうすい澱粉糊を加へ一定時間の後に砂糖の反應（フェーリンク氏液を加へ褐色粒狀の沈澱を作るを云ふ）を検出するに於て最もよく

次に蛋白質分解酵素について述べませう。蛋白質分解素を分けて二種とします。一をペプシンといひ一をトリプシンといふ。ペプシンは酸性液中に於て最もよく作用し其の產出物としてペプトン、アルブモイゼ等を形成するこれは動物の胃液中に多し。

次にトリプシンは中性及びアルカリ性中に於て最もよく

ハーゲン市のハンゼン氏である。氏は千八百八十三年コツユベンハーゲン市のアルトカールスベルグビール醸造所に於て始めて自己の作つた純粹釀母を試用して甚だ好成绩を得て名聲全歐に高かつた。

右は著甚なる酵素數種を述べたのみであつて此他に尙多數の素酵があつて今日は時間に制限があるからこれだけにして他は後日にゆづることしよう。

### 水彩畫を描く方法

（承前）

長谷川 晩 雪

野外寫生 前々號に靜物寫生の一例を擧げたり、今度は野外寫生の方法を述べよう、野外寫生の範圍は極めて廣く、一木一石の小部分より見渡す限りはてなき原野、重疊せる山嶽、等の大作に至るまで野外寫生の區域に屬す、從つて之れを描くに二三時間に仕上ぐべきスケッチと、一週間もかゝる寫生の方法と二つに分けざるべからず、爰に予が述べんとする野外寫生の方法も後者にあらずして前者とす、先づ位置の撰定、輪廓、描法、雜件の四つに分けて説明す。

位置の撰定 三脚、畫紙、畫架、傘、傘杖、（傘杖はなくともよし）を携帶して豫しめ、寫さんとする方向

く作用し其の產出物としてペプトン、アルブモイゼを形成し更に分解してアミロド酸類ヘキソバールセン、アノモニア、トリプトファン等なす。これは動物の腸液中に多量に存在し植物界にその分布最もひろい。其の著例を擧げて見れば肉食植物パバヤ、バインアブルの果實及び高等植物の種子中菌類バクテリア等である。次にもう一つ必要ある酵素を述べよう。それはビールの釀母菌中にあるチマーセである。チマーセは千八百九十七年フネル氏が始めて發見したものです。今此のコップの中に蔗糖液を入れそれに少しのビール釀母菌を入れて放つておくときは須更ましてフツフツと泡が出る此の泡は即ち炭酸瓦斯です。更に之れと同時にコップ中に馥郁たる香氣を發すこれ即ちアルコールの形成せられた証據です。此の現象を稱してアルコール醱酵といふのである。これはチマーセの作用である即ちアルコール醱酵によつて生ずる主産物はアルコールと炭酸瓦斯である此の他に副産物として三%のグリセリンと〇、六%の琥珀酸とを生ずるのが通常である。抑も釀母菌は學名をサツカロミセス、セラブイシー、*Saccharomyces cerevisiae*といひ昔はみんな不純粹なものであつたが始めて純粹釀母を作つたのは丁抹國コツペン

を定めて行く、てくてくと歩いて居るうちに、自分の眼に映じて感<sup>カク</sup>と與<sup>カク</sup>へるものがある、其所に三脚を据ゑて畫を描くのが通例であります、時としては思ふ場所がないので、處々歩いて居る内に時間を過す事も少くないのであります、然し自分が始め善いと思つた瞬間に定めた場所は大抵間違はありませぬ。

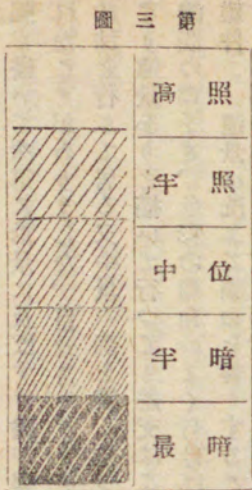
そこで道具を下し、畫架を立て、畫板をそれに寄せ掛け、風景に面して適當なる範圍を定むること立長く、圖を取るか横に圖を取るか又何邊から何邊まで畫面に入るか等を考へて見るなり（靜物寫生の時の物体の位置の部を参照せられたし）河合先生の御話によれば實景の撰擇に四通りありと、一は景色の中に於て形の上に現はれたる面白きものを描く流義と、二は濃淡の變化を描き表はすもの、三は形や濃淡よりも感じを描くもの、四は自然の色の配合を主とするもの、一の形の美なるものと云へば山あり中景に人家あり、橋あり、下に流れがあるど云ふ様々の形の上から見て美なるものとす、二の濃淡の變化を描くと云ふのは自然界に起る濃淡の變化で、雲の影で中景が暗き等の變化を描くを目的とせるもの、此方は多く太陽に向つた方を多く畫く以太利の大家ハンタネマーの如き濃淡の變化を



積きし人也と、三は感じを主としたるもの、佛蘭西の新派と稱するアンプレツションは形や濃淡に重きを置かず、感をかくことを主たる目的とす、此主義を主張する人はモテ、ピサロー、シスレー、レノーは其大家なり、此派の人の畫は流し下、井戸側等を畫き、太陽の光とか、熱い處を描き表はす、其方面に於ては遙に進歩して居る事の事なり、四は色の配合の面白き處を撰むもの、桃の花があり、菜種の花があるとか、空がコバル色であるとか、人に愉快の感じを與へる様に描く流義なり、それであるから是非こう云ふ様な圖取をせねばならぬと云ふことに入るまいと思ふ、又研究的方面から申せば場所を撰む必要はありませぬ、窓から見た風景も、庭園の一部も寫生の材料には立派なものであります、僕は同じ場所を八ヶ月許續いて書いたことがあります、樹の芽が出てゐる、繁茂する、黄ばむ、落葉する、一寸樹木の研究にはなりました。

輪廓 場所が定まつたら先づ畫面に水平線を引く、上端より凡る三分二下つた處に、畫者の眼の高さに均しき一點を打ち、之れを水平に引長して水平線とす、(空を多く畫面中に入れんと思ふ時は水平線を下より四分一位にすることあり、又之れに反して地平面に面

だ大切なる事にあつて居る、濃淡の順席は人によつて階段を種々に分けて居るが、要するに白を高點とし、尤も暗き部分を其濃度の極とし、便宜上其間を階段的に、色の濃淡を分ちたるものとす、之れを音樂に於ける音階に譬ふれば高照は1にして最暗は7に相當するものとす(第三圖を参照せらるべし)



倍て風景を描くに當りては之れを應用せざるべからず、普通の場合

に於て空は高照(尤も明るきと云ふ意味に用ゆ)の部分とし次に近景、中景、遠景と行くに従ひ暗くなる但し中景の森の濃さは其等のうちにては最も暗きものなるべし、ラスキン曰く日中深藍色の天空は白紙の白さよりも白しと。

次に色彩の話を話さん、風景の色彩は四季の期節により、朝夕の時間、晴天、曇天の關係により一定せざるが、故に爰に一二を述べれば近景に於ては綠色又は黄褐色等の實物の色を認むれども次第に中景に至るに従

白きものある時之れを廣く畫面中に入れんとせば、水平線を上げて下より三分二位までに達せしむることあり、其れは畫者の隨意とす)



圖二第

次に最初に描ける基稿線を餘り變せず細部分の下圖を取るを可とす。描法 着色にかかる前に濃淡の事を話すべし、濃淡之れは墨繪の色とす、即ち調子なり、日本畫にも墨畫あり、洋畫にもあり、色彩にて繪を描く順席として甚合へるが如し。次に最初描ける基稿線を餘り變せず細部分の下圖を取るを可とす。

ひて鼠色を帯び遂に遠景に至りては殆んどコバルトブルーニなる、空は一般にコバルトを含めども晴天の時あどにはエルローオーカー又はレモンエルローの如き黄色を含む殊に秋は綠色に近き空を見ることもある朝は近景は露を含み居る故に鮮かに空にはクリムリンレーキ又はカーマインを含む、青はインデゴを以て書くと朝の感じを著はす、夕はライトレッド、パーミリアオン、カドミニウムオレンヂを多量に含みたる赤砂を空に用ゆると夕景の感を生ず。

遠景が緑であるときにコバルト、レモンエルローと僅かのパープルレーキを入る、コバルトの代りにウルトラマリンを用ゆることあり、中景の森にはインデゴレモンエルロー、ネーブルスエルロー、に少許の紅(クリムリンレーキ、又ハカーマイン等)を入る。近景が緑であるときにガンボヂ、カレモンエルローにエメラルドグリーンを混しても透明の緑を得桑の葉等にはよし、光澤なき緑を作るにはインデゴに不透明の黄を入る、即ちレモンエルローの如きもの、インデゴの代りにはプルシヤンブルー、アンターリアブルーを用ゆるもよし、道路の色を畫くにはライトレツト又はパーミリアオン、エルローオーカー、を用ゆ又影



にはカーマイン、プラオンマダー、セピア等の透明色を用ゆるを可とす。

描法の順序　これは人によつて種々あり、又何れの方法を取つても差支なしと、先輩の人々も云ふて居られる、自分もかくかゝねばならぬと云ふことは人から餘り云はれたことはないから、自分で信ずる通りの遣り方を今日まで行ふて居る二三の人は明るい方から暗い方に及ぼす遣り方をやつて居つた、即ち空から遠景中景に及ぼす遣り方である、三宅先生の御話にも空を強く書いて次第に前景に及ぼすと繪が強くなること云はれたことがありました、自分もスケッチする場合に此法を行ふて居る又中景の森を濃く塗つた工合で近景なり遠景ありを描いて行つても差支はなし、要するに濃淡の調子と、色彩の調和がよく行けばそれでよし。

雜件　遠景は洗ふて調和を善くすること前々號に海綿にて洗ふことは失敗を生せし場合を救ふ様に書きたれども、其意味の他に洗ふて書き上げる場合もある、筆に水を含ませしめて軽く遠山、又は中景を洗ふて、色彩を穩かに落付けることあり、又レモンエルロー、コバルトプリューの如き色を混じて洗ふこともある。空の如きは淡き色を數回重ねて塗り善き發色を得る方

法もありこれは前に云ふた洗つたこと、同一の結果となる。

單彩を施す場合あり旅行中等にて短時間に色彩を用ひ難き場合には鉛筆にて輪廓を引きて其上に心覺に色を付けるなり、色鉛筆を用ゆることもあり時には繪具の頭字を取つて符號を記すこともある、VはヴェリオンLはライトレット等の如し。

寒色熱色の區別　寒色とは寒い感を起さしむべき色にして青(原色)綠紫(間色)とす、黃(原色)橙黃色(間色)赤(原色)は熱色なり。

透明色不透明色の區別　白(ホワイト)を含む色は不透明色とす、之れに屬する色はレモンエルロー、エメラルドグリーン、コバルトプリュー、パーミリオン、ライトレッド等なり。

透明色に屬する色はカーマイン、クリムソンレキ、アルシヤンプリュー、ローアンバー、ガンポーチ、ロシヤナ、アンタープリュー、マダープラオン等なり。繪畫研究上より得たる經驗談

一、自然界に於ける一部分の觀察　畫家は濃淡の調子色彩の配合、形の變化等の大部分に於ける關係を研究すると同時に極めて細かさ部分迄觀察をせねばならぬ

人体を畫く者が人体の解剖學を必要とするが如く風景を畫く者は風景の一部分の觀察することを怠つてはならない、例へば樹木にて云へば常盤木の枝振りや幹と枝とによりて成す角度が鈍角であり、落葉木はそれと鋭角であるとか、色にしても春より夏にかけての黄色はレモンエルローであつて、夏の終より秋にかけてカトミニウムエルローの黄色を含むが如き區別がある或る時庭前の池に前景の山のはげた處が倒映して居るのを見た水が動いて居つた爲めに……に寫つて居つた杉の濃綠　冬になれば杉はライトレッド色に赤味を帯びるが、予の見た盛夏の時には前景の山の中にてあらゆる樹木の林の中に尤も濃綠を示したのは杉の林であつた、冬になれば赤くなる杉もあるが依然として色を變ぜない杉を見たことがある、成長期に關係せるものゝ如し。

遠景の山　綠の範圍を過ぎ去りて既にコバルトに屬せり。

近景の綠は遠景の綠がコバルトに見ゆる時にレモンエルロー其儘に見へた儘かザクロの樹であつた。

二、寫生旅行中に於ける感(四十年八月十日信州澁温泉にて)

1. 服装は成るべく輕便なるを要す單物三枚位にて足る
2. 夏の旅行には繪具の内レモンエルローを一週間約一本丈餘計に用意することガンポイは二週間に一本位あれば足る。
3. 寫生道具は成るべく輕便なるものを撰むべきこと。小一枚を仕上ぐるにワットマン八つ切、四つ切、共に二度若くは三度かゝりて仕上ぐることを、一度にては大體の調子を定むる位のものとする。
4. 場所の撰定には平素必らずスケッチブックを用意すること。
5. 宿屋に着きたらば如何なる方面(道路、山水、溪流、田園等)に向つて寫生すべきかを始めより計畫すること
6. 道路山水と添景人物　道路山水を畫くには多くの場合添景人物を書き入るゝ必要あり故に常にスケッチブックを持ち居り畫材になるべき農夫、牛馬、旅人等を見次第手早く書き込むこと。
7. 太陽を背にして景色を正しく照らして畫く場合　遠近を表はす上に於て困難である。
8. 寫生は決して急ぐべからず、自然の形や色を十分に觀察して後筆を下し、少しにても天分の變化、光線の強弱を認めたらば中止すべきこと。



余は水彩畫の描法を終はるに臨み佛國近代の風景大家  
ジャン、バプチスト、カミール、コロオが云はれた二三  
の詞を記さん。

コロオ曰はく美術の極意は唯愛なり。

又曰はく眞は美術の第一義而して第二義第三義なりと  
又曰はく畫家の先づ畫く所は自然に服従したる畫なり  
所謂畫を成すの期之れに次ぐと。

又曰はく畫家に四つの務あり、第一は形、圖して摸す  
るを得、第二は色、比較輕重を注意して是を得、第三  
は感情、受け得たる感象より生ずるもの、第四は運筆  
以上の三者を總ぶ余の如きは自から思ふ感情は即ち之  
を有すと即ち余が心中聊か詩のあるありて余をして以  
て見且見る所を全ふするを得せしむ、然れども色は往  
々にして之れを失し、形を圖するの技倆は甚だ乏しく  
運筆も屢失敗を免れず、是を以て余はいよ／＼努力し  
て已まざるありと。  
(完)

### 訓育小見

葉山 蘇 水 生

余は己の過去を顧み、常に斯う思ふて居る、高等三四  
年にもなつて自己の身邊に纏ふ位の事柄の、善惡正邪

かゝる一時的狂者を、せむるに、結果を以てするは首肯  
の出來ぬこととて、希くは一步進めて、狂者になりしを  
責めて貰ひたいと思ふ、余は、知らずにやりましたと  
云ふことのさい様にするを以て、修身教授の根本とし  
て居る、即ち爲した事は、責任を負されて差支なく、  
爲すことは、責任を重むて、とりかゝる。

是れは如何なる場合でも、明智の働きを確實にするの  
で、たとひ、悲樂の極に奔つても、明智をかつぎ出す  
處の意志が必要なのであるから、成人にも中々困難で  
ある。併し經驗によれば、彼等は屈窮の爲めならず、  
熱中狼狽の爲めに明智を呼び起さるる場合が多い様で  
あるから、先づ、是をふせぎ、然る後に前者に及ぶの  
考へて余が今とれる手段は斯うである。

見聞を廣め交際を廣くす。見聞を廣くするは、明智  
を磨く所以で、誤らざる判断を下すの基である。交  
際を廣くすると、判断を下す場合と判断とが、批評  
的に觀察せられて、實際に手際が知れるのである、  
斯うあると左程、考を要せずして、あすことが、誤  
らぬ様にあるのである。

一事をなす前に、己れの年を數へよ。是れは、狼狽、  
逆上の場合、明智をかつぎ出す意志の作用を、外界

がわからぬことはない十中の八九は即座に立派を判断  
がつく。處が、此の時代は失策の多いのは、時に及び  
場に望んで、是を判断する明智が出て來ないのである  
熱中逆上馬車馬たるのであると。

余は斯様な考へで、吾が高等三年の兒童に、接して居  
る。教室に於ての、彼等の判断は、殆ど凡べてが正し  
く、左様なことは、百も承知であると云はぬばかりの  
顔をして居ることが、多い。しかも、一旦教室を出て  
運動場に於ての舉動、學校を去つての進退去就は、甚  
だ當を得ぬことが、多いのである。是を詰問すれば、  
彼等は只、窮して答ふる所を知らず。察するに、其の  
矛盾なるを知るからである。「何故悪いと知りつゝな  
した」とは、度々、聞く先生方の言葉であるが、是れは  
甚だ無理な詰問であると思ふ。此の時の兒童の心狀を  
見るならば、其の悪いと知りつゝ、他の性欲の爲めに  
なしたるものもあらん。然しあがら、其の多くは熱中  
の爲めに、あさはかな判断を下し、全く判断せず、或  
は却て外物に左右せられて、行動せしものからん。故  
に前者は、全く答ふるに忍びず、後者は、悪いには違  
ひないが、其の時は悪いとも思はなかつたので、知ら  
ずによりましたと、答ふる外は全くさいのである。斯

より促したので、如何なる方法によるも、只そこに  
僅の時を得れば、よいので、此の數秒の時こそ中々  
大切である。さばかり悪いと思はず、事をなし、大  
に後悔すれば、全く此の時がないからである。此の  
時があれば必ず明智が首を出す、首を出せば、しめ  
たものである。判断は即時に下る。故に、此の時を  
與ふれば、失敗は殆どないのである。孤獨、社會へ、  
出しても、先づ安心であると思ふ。

### 救急療法

尋常高等南足柄小學校立案

救急法は過傷及急病に羅り醫療を乞ふの暇なきに方り  
て臨時適應の處置をなす以て創傷及疾病の勢を制し兼  
ねて眞の醫療を施すに便利ならしめんことを計る方法  
にして一之を第一救護とも云ふなり此法にして宜し  
きに適すると否とは實に患者の安危に關すること大な  
り抑も外傷を蒙り疾病に罹るは不虞の災厄にして時と  
場所とを選ばず通例傍人は徒に狼狽して助言百出各意  
見を異にし遂に從ふ所を知らざるに至り爲め病者を  
して益々不幸に陥らしむること比々として是なり誤れ  
るの甚だしと謂ふべし此の如き不慮の時に於ける救急



法中最も簡單なるものは庸人と雖も之れを行ふに易くして次は眞の醫療を施すにも亦寸害なくして大利あるものなり但し外傷及疾病の種類は頗る多端にして豫め期すべからず故に平素無事安泰の時に於て諸種の過傷及急病を救ふの法を研究熟知し且つ一個の救病箱を貯へて危急に備あるは各人に於て緊要缺くべからざるの一事なり是れを以て今救急法の要領を摘て逐次左に約説せんとす。

一、救急箱

救急箱には左の藥品を備へ置く。

- 一第一號石炭酸水(500)のもの藍色の瓶に入る(五百瓦)
- 二第二號石炭酸水(300)のもの淡青色瓶に入る(五百瓦)
- 三硼酸水(200)のもの白色の瓶に入る(五百瓦)
- 四サルチール酸軟膏(硝子器に入る) 六十瓦
- 五明礬末(五瓦づつを赤色の紙につゝみ一包とす)五瓦
- 六芥子末(細き瓶に入る) 五十瓦
- 七脫脂綿 二枚
- 八リント(一尺四方) 一枚
- 九ガーゼ 一反
- 十昇汞ガーゼ 一枚
- 十一薄油紙(美濃判のもの) 三枚

十二卷軸帶(五列)

大小若干枚 五十卷

十三三角帶

十四絆創膏

十五剪

十六匙

十七ピンセット

十八ナイフ

一挺

十九度丁幾

二十カンプロ丁幾

三沃度ホルム

二十一ワセリン

二、救急小包

救急小包は旅行其他外出のとき救急箱を携へ難きときには必ず之れを一、二個携帶して不慮の用に備へんが爲めに輕便を主として作りたるものなり其品目如左

- 一昇汞ガーゼ(本幅にて一尺のもの二枚)薄油紙も包む 一包
- 二卷軸帶五列のもの 一包
- 三硼酸末(四瓦を白紙に包む) 二包
- 四明礬末(五瓦を赤色の紙に包む) 一本
- 右四品を厚紙の澁紙の囊に納め糊封す。

(注意) 以上救急箱及救急小包は消毒薬を以て製したる物品を納むるものなれば常に清潔に保持し冷涼乾燥

の處に貯へ妄りに開くべからず假令必要の時と雖も風塵劇しき所及庖厨廐舎等一切不潔の場所にて開き且つ不潔の手指にて取扱ふは嚴に禁する所なり若し此注意を怠るときは創傷の處置徒に徒勞に屬するのみならず動もすれば却りて災害を招くに至ることあり極めて注意謹戒せざるべからず。

三、外傷

外傷の種類 外傷とは身体の一部外物に觸れて損傷したるものを云ふ多くは過失に因りて起る之を分ちて切創、刺創、割創、裂創、擦創、挫創、銃創、咬創、毒創、骨創、脱臼、火傷及凍傷とす。

1 切創 刺創 割創 裂創

起因 此場は外物によりて筋肉に深く切り込みて起るものなり。

徴候 何れも著しき出血を見るものなり。

(注意) 著しき出血をなすものなるが故に傷者及傍人は共に驚愕狼狽して許多の手布及布片を以て創口を掩ひ一時出血を見ざれば之を以て適當なる處置をなしたるものと思惟するを宜しとす是實に誤れるの甚しきものなり元來許多の布片等を被ふときは假令外部に血を流すなきも血液は其實質内に侵入して出血を止むるより

は寧ろ之を進むるを以て極めて危険なり古來此の如く處置をあしたる爲めに微小の創傷なるも遂に生命を殞したる例頗る多し出血止まざるときは決して繃帶すべからず。

療法 総て創傷は何種類に拘はらず速に冷湯或は清潔なる冷水を以て洗滌して創口に附着する汚物及凝血を洗ひ去り且つ冷水の力によりて出血を止むるを良とす第二號石炭酸水を以て冷水に代ふるときは益々良好なり殊に不潔なる傷に於て最も然りとす、此の如き出血殆ど止むに至りて創口を接合し昇汞ガーゼを貼けて三角巾を以て巻くか或は第一號石炭酸水を綿に浸して貼け三角巾或は卷軸帶にて巻き患部を高くして安靜に保持すべし小創にて此法により出血疼痛を止めたる時は初め施したる繃帶は決して解除し或は交換することなく全く癒るに至るまで放置するを宜しとす。

又創傷稍大にして以上の諸法を施すも出血止まざるときは後に述ぶる止血法によりて處置し速に醫士の來診を乞ふべし。

又救急法の備へなく清水を得ざるときは創口を洗ふに海水又は燒酎を以てし多量の白砂糖を創處に盛りて繃帶するも可あり。



(注意)石炭酸水は身体内部の創(眼鼻口等)及小兒、老人には用ふべからず之れに代ふるに硼酸水を良とす。

2 擦創

起因 擦創は打撲、顛仆、墜落、摩擦等によりて皮膚の一部剝脱したるを云ふ。

徴候 擦創は創口に不潔物を附着せしむるが故に之を放置するとき小にして淺き者は自ら瘡痂を結びて癒ゆるも稍深きものは多くは潰潰す。

療法 速に冷水冷湯或は第二號石炭酸水を以て充分に創口を洗ひて悉く汚物を除き次に昇汞ガーゼ或は綿に第一號石炭酸水を侵して貼け三角布或は卷軸帯にて縛帶し患部を高くして安靜に保持すべし又爾後疼痛甚だしきときは縛帶の上より冷器法を行ふべし多くは餘症を起さずして癒ゆるものなり。

3 靴傷及鞍傷

起因 靴傷及鞍傷も亦擦傷の一なり一定の部を引き續きて摩擦するに由るものにして身体の不潔靴の硬固其大小形状の不敵靴の不長及過剩の歩行騎乗等を主なる原因とす常に之に注意せざるべからず。

豫防法 是れを豫防するには休息するによりて直ちに冷水或は火酒にて足及靴傷を起し易き部を洗ふべし

既に皮膚赤色となりて熱氣を生ずるものは冷水にて冷し次に白粉麵粉或は葛粉等を擦敷すべし。已に皮膚剝脱し或は水泡を生じたるときは冷水にて冷し或は細き針にて水泡の側縁を刺して水を漏し冷しサルチール軟膏を塗敷するか或は之を軟き紙に攤して貼るべし又發赤腫起して疼痛甚だしきときは第號石炭酸水を綿に侵して貼け更に薄油紙にて被ふて縛帶すべし。

教授管理

自修の仕方

左に記載するものは東京高等師範學校附屬小學校第三部に行はるものなり。

- 讀方 甲 豫習
  - 一、讀方のしらべ
  - 二、語句のしらべ
  - 三、事からのしらべ
  - 四、段落のこまかな調べ及び大意

ロ 文の改作

ハ 語句の應用

讀方直接教授 乙復習の場合

- 一、讀方の練習
  - 二、話方の練習
  - 三、文章の組立及語法上重なるもの
  - 四、寫字及語句の書取練習
  - 五、遣名遣の練習
  - 六、語句の解釋(筆述)
  - 七、語句の應用
  - 八、文章の改作
  - 讀方自修 乙復習
    - 一、讀方のさら(男兒と女兒とかはるがはる)
    - 二、話し方のさら(同)
    - 三、漢字の書取(始漢字の讀方を假名にて書抜き後漢字をあてはむ、新字を先にし他字に及ぶ)
    - 四、語句の書取(新語句を先にし他語句に及ぶ)
    - 五、假名遣の書取(ハ行ワ行等誤り易きもの)
    - 六、文の改作(文語を口語に口語を文語に)
    - 七、文の組立(各段落の大意と全部の組立)
- 讀方語方は當番兒童指示の下に 書取は練習の後當

五、漢字のしらべ(筆順字劃扁傍)

六、假名遣のしらべ

七、文語を口語になをすしかた

八、漢字の書き方練習

九、假名遣の練習

示されたる箇所につき四年五年は斯出文字新語句摘字解釋表、六年は辭書によりて自修すること。

讀方直接教授 甲新教材の場合

- 一、讀みのしらべ
- 二、語句のしらべ
- 三、事實のしらべ
- 四、漢字のしらべ
- 五、假名遣のしらべ
- 六、文章のしらべ

此五項は自修の結果を試み誤らば正し不明の點を授く

イ 文語と口語との關係

ロ 語法上重要な諸項

ハ 文章の構造

ニ 修辭法

右六項が授與の重要部分である。

七、練習

イ 漢字及假名遣の書取



番兒童書物につき讀み上ぐ。  
算術科自修のしかた

- 甲 事實問題の解き方
- 一、問題の提出（全文板書を本体とし文書は平易な口語体）
- 二、問題の全文を讀み通すること（屹度二度以上よめ）
- 三、問題につき何を求むるか（答はいくつ名數か不名數か名數ならば何）
- 四、答の概算をあすこと（別にしるして置け）
- 五、順次に解いて式を立て計算すること
- 六、結果と目的との對稱（實行せしや否やを確む）
- 七、概算の數と答數の對稱
- 八、算式及計算の再調査（問題の解き誤りはなきか數の見あやまりはなきか運算の誤りはなきか）
- 九、算式の理由方法の説明（話方として明瞭に正確に秩序正しく多數の兒童に發表せしむ）
- 十、檢答

算術科直接教授

- 乙 運算の形式の教授（筆算）
- 一、筆算の必要を悟らしむ（百以上の複雑なる數に

就て）

- 二、方法を順席よく授く（算法の理由説方）
  - 1 數の排方 2 符號のつけ方 3 線の引き方
  - 4 計算の仕方 5 答の仕方
  - 三、例題につき練習
  - 四、暗算に比し計算の簡便あることを知らしむ
  - 五、驗算の方法を授く
  - 六、算法の理由を説く（方法を充分習得したる後）
- 算術科自修
- 運算形式練習
- 一、式題の提出（當番は與へられたる式題を黑板にかけ）
  - 二、各自の運算（當番は黑板に運算せよ）
  - 三、檢答（當番は答をしらべよ）
  - 四、驗算（誤りあらば正せ）
  - 五、速算練習（驗算して誤りのないかよかつたら他人の出來るまで各々時計を見て速算をせよ）
- 地理科自修のしかた
- 豫習
- 一、位置のしらべ
  - イ 何縣の西      何縣の北

四、練習

教授の逆によりて問答復演せしむ。

地理科自修

- 一、要項筆記（丁寧にか）
  - 二、筆記を書物にくらべて復習
  - 三、兒童用地圖の地勢の別け方  
（色鉛筆できれいに分けよ）
  - 四、地圖の模寫又は暗寫（成る丈け暗寫せよ）
- 圖書手工科自修のしかた
- 壹
- 一、手本の圖の構造材料及用途のしらべ
  - 二、手本の圖は如何なる場合に畫きたるか意味のしらべ
  - 三、位置、大小、角度、線の方向しらべ
- 貳 模寫
- 位置、大小、角度、線の方向、筆順（首格輪廓）  
筆使、着色の注意
- 寫生

- 三、交通と都會
  - ハ 北方は一面に何にありや
  - 二、地勢のしらべ
    - イ 東部 山地 著名の山
    - ロ 西部 低地 著名の川
    - ハ 中部 何々
  - 三、交通と都會
  - 何鐵道
 

位置	人口
役所	何町
産物	
  - 何航路—何市—何港
  - 四、重なる産物（何地方から）
- 地理の直接教授
- 一、位置
    - イ 何ノ西或ハ東
    - ロ 北ハ一面ニ何
  - 二、地勢
    - 東部—山地—何山—産物—何故
    - 西部—低地—何川—

水流	河口
----	----

—平野—産物
    - 北部—海—氣候—産物
  - 三、交通系と都會

壹

- 觀察
- 一、實物標本の位置の適否のしらべ

教授管理



- 二、一眼にて形のしらべ
- 三、陽陰彩色上濃淡のしらべ

貳 模寫

位置、大小、角度、綿の方向、筆順(首格輪廓) 筆使、着色の注意

手工製作

思想書

- 一、圖案材料の選擇
  - 二、材料の排べ方の選擇
  - 三、位置、大小、筆順(骨格輪廓) 着色の注意
- 手工作り方
- 一、手工帳に制圖 二、製作
  - 厚紙細工附切貫
  - 一、手工帳に製圖
  - 二、製作、表紙の裏面に製圖、製圖の正否の調べ
  - 裁ち方、同貼り方、縁貼り、表紙及裝飾
  - 竹細工
  - 一、手工帳に製圖
  - 二、長さを定むること、厚さを定むること、幅を定むること、仕上削をなすこと、磨き上げること

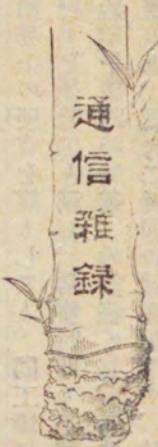
東京高等師範學校附屬小學校第三部にありし

言語矯正表

- 一、ひとしどを誤れるもの
  - ひける ねしる ひほひ ひろい
  - ひらひげ ししやくしよー しばち
- 二、いとへと誤れるもの
  - はへる いいる かいろ さかへ
  - さかいた
- 三、其他
  - あせる みたいな こぐる しかれ
  - やぶける
  - かた(う) かたうあります
  - よわ(う) よわうございます



通信雜録



船越實業補習學校の狀況

渡邊 泰治

今や普通教育の普及と實業教育との進歩に伴ひ、到る所に實業補習學校は設けられぬ。是等實業補習學校は小學校の如く、劃然たる同型の規程に拘束せらるゝものゝあらざれば、何れも内容に於て、外形に於て、多少の相異なるべく、各校夫れ々特色の點も有るべし。各補習學校に於て是等の特異の箇所を發表し、相互研究の資に充つるは、蓋し、徒勞の業にあらざるべしと信じ、茲に稍特異の點多き我船越實業補習學校の概況を述べ、縣下補習學校當事者の一讀を乞はんとす。

一、設立の沿革 本校は當地方の青年に普通教育の補習をなさしめ、且つ實業教育の基礎を養成せんとする必要より設けしは勿論なるも、亦他に此の設立を促す所の一理由存す、抑も當地は横須賀軍港内に

ありて横須賀海軍工廠造兵部の所在地なり。該造兵部は、三十七八年戰役以來頗に擴張せられ、現に三千有餘の職工を收容し居るを以て、本村及近村の青年子弟の大半は同部工場職工となり居るの有様なり。而して同工場は、言ふ迄もかく日進月歩の兵器水雷等を製作する所あれば、従つて之に従事する職工も、他の職工と異なり學術と實地との技能を兼ねたるものを要するは勿論なり。されば部長、種子田造兵大監初め、部員の人々も、是等職工の教育、殊に年少なる見習職工の教育の忽にすべからざるを認められ、數年前より時々工場内に講習會様の研究會を開き、年少職工を教育せしめられぬ。然れども其効果の到底學校教育に及ばざるは、甚だ、遺憾ありとの聲は、屢々部員諸氏より聞く所なりき。時恰も縣當局者が實業補習學校の設立を熱心に奨励せられし際なれば、本村に於ても率先して、之れが設立を企圖すると共に、此の職工養成をも、本校の事業とせんと之れを部長部員諸氏に謀りしよ、諸氏に於ては喜んで、其學に賛同せられ、陰に、陽に、これが設立につき援助を與へられしを以て、開校前既に二百名の入學志願者を得たりしかば、遂に明治三十九



年四月開校の式を擧ぐるに至れり。爾後今日に至るも常々、二百名内外の生徒を有し、造兵部より總べての事業に便宜を與へらるゝこと、益々厚きを加ふるに至れり、この造兵部との密接の關係こそ即ち本校の獨特の長所にして益發展の途に就く所以なれ。

二、學級編制及生徒數 本校は主として男子の爲めに設けしものあれども尙、これに附隨して、女子部を設け、高等小學卒業程度のものに主として裁縫刺繡等の技藝を授け、兼ねて修身國語算術家事業等の學科を教授し居れども、未だ生徒數も少なく成績の著しきものもあらざれば、各項共男子部のみに付て述ぶることせり。

男子部は甲科乙科に分ち、甲科は學年制度とし、其修業年限を二ヶ年半とし、乙科は、學科制度とし、一科の修業期間を六ヶ月とす。斯く甲乙二科に分ちしは學科の程度によるにあらずして、専ら造兵部職工の勤務上の便宜を謀りしなり。同工場にては滿十七歳以下を見習工と稱し、常務時間（午前六時乃至七時始業午後四時終業）の勤務とし、其他は常務時間勤務の上、更に二時間の殘業を爲す、故に全一時間間に學校の教授を開始するときは、不便少なからざるを許すことせり、海軍々人及中學生は概乙科にし、て、其の中には准士官二名あり。

三、學科課程 甲科の一學年は、普通學を主とし、二學年は工業に關する學科を交へ、三學年又至つて

るを以て、甲乙二科に分ち、甲科は主として、見習職工、乙科は其以外のものを收容せしむるとせり然れども、これ大體の區別にして、見習工以外のものにして殘業を休み、甲科に入學するものも亦少からず。

學級の編制は、甲科毎學年を一學級宛とし、乙科は英語、幾何、發動機學、電氣工學の四科に分ち、各科を一學級とし、合せて七學級とす。九月末の調査にかゝる、各學級現在生徒數は左の如し。

甲科	一學年	七十四人
	二學年	三十四人
	三學年	十七人
	計	百二十五人
乙科	電氣工學科	七十一人
	英語科	七十六人
	發動機學科	四十六人
	幾何學科	六十三人
	計	二百五十六人
	合計	三百八十一人

右の内乙科は學科別の編制なれば、一人にて數科兼修するものあり、従つて實人員は右表より少くして、現在數百〇五人なり、故に生徒の實數は合計二百三十人とあるあり。

生徒の職業は、大部分造兵部職工にして、他に海軍々人、中學生、小學生等合せて二十餘人あり小學校の生徒は高等四年以上の者に限り、甲科一年に入學

を許すことせり、海軍々人及中學生は概乙科にし、て、其の中には准士官二名あり。

三、學科課程 甲科の一學年は、普通學を主とし、二學年は工業に關する學科を交へ、三學年又至つて

り、主として工業に關する學科を課することとし、乙科は普通學、工學共實用的のもののみを撰び、速成を主として定めたり。今現行の課程を左に表示せん。

男子部甲科課程表

學年	教授時數		學年	教授時數		學年	教授時數	
	一學年	二學年		一學年	二學年		一學年	二學年
修身	三	一	國語	三	一	算術	三	〇
英語	二	二	數學	三	三	英語	二	二
理化學	二	二	英語	二	二	理化學	二	一
圖書	二	二	英語	二	二	圖書	二	二
工業	〇	二	英語	二	二	工業	二	五
計	一二	一二	英語	二	二	計	一二	一二

備考 三學科は五月より十月に至る六ヶ月間とす。







も、如何に退學の多かりしかを知るべし。然るに本年に於ては此弊少く、甲科の如きは、病氣及死乙の爲め三四名の退學ありしのみにて、却て中途にて續々増加するの傾あり。乙科に至りては、甲科に比すれば稍中途、退學多きも、これ亦昨年之比にあらず、斯くの如きを以て漸々生徒の欠席も減じ眞面目に勉勵するに至り、自ら學術の成績も真好に赴くに至れり。

本年四月四日本校修業證書授與式の席上に於て、種子田造兵部長が、「國家の富強を圖るには精銳なる兵器を得ざるべからず、精銳なる兵器は優良なる職工の手によるにあらざれば得られざるなり、我造兵部は優良の職工を殊に、この超越實業補習學校の卒業生に待ち、益兵器の改善を圖らんと期す。」と、蓋し此造兵部長が生徒に對する訓示は、如何に職員生徒が熱心の度を増せしかを知るべく、漸々好成绩を得るの動機となりしや疑なかるべし。

生徒の成績に就ては、時々造兵部員に就き工場内に於ての效果如何と尋ぬるに、何れも、就學日尙淺きを以て如何なる程度迄智識と應用し得るや否やは智能はざるも、技術の早わかりのすると、謹直に職を勤むると  
村立農業補習學校は特別の季節を限り夜間に授業をなすもの拾三個校にして休業日のみをあすもの(毎週土曜日午後一時ヨリ 日曜日午前八時ヨリ 午後四時マデ)の範圍内、一校あり職員は皆な小學校教員より兼務せり其設置年月授業季節等左表の如し。

學校名	設置年月	授業期節	職員生徒數	一ヶ年經常費
井ノ口立井ノ口農業補習學校	明治廿九年十二月ヨリ	十二月ヨリ三月ニ至ル	二	三〇、〇〇〇
中村中村農業補習學校	同 四十年一月二月三月ヨリ	一月ヨリ三月ヨリ	三	英、二六〇
立中村環境農業補習學校	同上	同上	二	三、〇〇〇
立上野上野農業補習學校	同上	同上	三	五、〇〇〇
立寄村寄村農業補習學校	同上	同上	二	四、〇〇〇
立會我我農業補習學校	同三十九年九月	同上	三	七、五〇〇
立金田田農業補習學校	同三十九年九月	同上	三	七、五〇〇
立南足柄南足柄農業補習學校	同 四十年一月	同上	六	一五、〇〇〇
立井井井農業補習學校	同上	同上	三	四、〇〇〇

は、稍成績の見るべきものあるべく、殊に一般に人格の高まりしは、顯著なる効果にして、多くの職工に就て一見生徒なるや否やを識別することを得、これを以て見るも職工教育の必要を知るべしとして、益本校の爲めに盡力せらるゝに至りぬ。  
要するに、本校は未だ創立の際とて設備整はず、十分の成績を見る能はざるも、只補習學校として他と稍特異とする點あるを以て、敢て本誌の餘白を籍り、其狀況の一般を述べ、但し生徒訓育の方法經費に關する事項等、尙述べべきこと少からざれば、他日整頓の期を待ち、更に述べることとせん。

足柄上郡實業教育の狀況

吉野 久忠

當郡に於て既設の農業補習學校は現時拾五個校あり郡立壹校他は村立にして何れも小學校に附設せるもの也郡立農業補習學校は明治四十年四月の設置にして吉田嶋村大長寺を仮校舎とし全年を通じて晝間に授業をなす入學資格は高等小學第二學年修學以上の學力を有するものとし修業年限を二ヶ年とす職員は訓導兼校長一人訓導一人にして一ヶ年の經常費は壹千七百廿四圓也

村名	設置年月	授業期節	職員生徒數	一ヶ年經常費
岡本岡本農業補習學校	同三十九年九月	同上	四	七、五〇〇
福澤福澤農業補習學校	同 四十年一月	同上	三	六、〇〇〇
北足柄北足柄農業補習學校	同三十九年二月三月九月	二月ヨリ三月ヨリ	二	四、七〇〇
北足柄北足柄農業補習學校	同上	同上	三	四、七〇〇
神立神立農業補習學校	同三十九年九月	同上	四	四、〇〇〇

農業補習學校は何れも設置日尙淺きを以て未だ充分の效果を見るに至らざるも之を設立前に比し青年者の風儀を矯正し各自家業に勤勉するの氣風を養成せるもの如し。

今試みに就中就學者多き南足柄農業補習學校に就き入學者の學力程度及其年齡を調査せるに左表の如し。

南足柄農業補習學校入學者の學力程度	不就學者	尋常小學三年修業者	尋常小學卒業修業者	高等小學第一學年修業者	高等小學第二學年修業者	高等小學第三學年修業者	卒業者	計
一	七	一四	二〇	二九	二二	五二	一四四	

同 上入學者の年齡



三十歳以下	廿五歳以上二十歳以上	十五歳以上七	十五歳未満	計
一	一六	五六	六八	三
				一四四

### 成功せる父兄會

郡視學 濱田國藏報道

學校と家庭と意志の疎通を計るため父兄會母姊會母の會てふ名前のものに學校教師と父兄との集會を設くる必要なるは今更述ふる迄ても無い又熱心なる教員諸君は常に此點に留意せらるる仁が多いが其方法組織が當を得ない爲誠に効果が少い様に思ふ折角苦心の結果父兄を大分集めても唯教員や學事關係の人が演説談話をなすに止まり實際受持教師が直接に兒童の父兄に就いて而も接膝談笑のもとに家庭の様子を聞き教師の希望を述ぶるが如き餘裕がない遺は畢意するに餘り組織が大袈裟に失するので其實質を擧げんとするには遠い茲に余が先づ成功せりと認めたる父兄會が津久井郡内郷村小學校區域内に於て實現せられた時は十月廿九日午後八時十五分より十時三十分迄の間に字増原てふ部落に開會せられた者であつて是は別に父兄會てふ會合なるはろ。

長谷川校長の談に依れば同村内を八區にはかち時日を定めて出張すること其熱心は國家教育のため大に感謝に堪へん併し斯の如き熱誠を以て導けば感せん父兄は無かる一目下學務委員等も非常に熱心に奔走する様に見受けた要するに今日の小學教育は其効果を完からしめんとするには須からく家庭に迄踏み込んで父兄の町から一番改良する位の覺悟を教育者は持たねばならん場合と思ひ同會が其端緒を開いたと思ふから一寸照會して置く。

### 大磯小學校に於ける戦死者遺族慰籍會

朝倉敬之

中郡大磯小學校にては先月十六日日露戰役平和克復詔勅煥發の日を期し戦死者遺族慰籍會を開きたり運動場に式場を設け生徒全体整列し正面に遺族十一名を請し兩傍に町の吏員在郷軍人の列席を請ひ先づ校長開會する旨を述べ尋て職員分担にて各戦死者の戦死状況等を縷々説話し次に尋常三年男生小林勇太郎左の通口頭もて遺族者を慰め。

マコトニオキノドクダス、ニチロセンソノデオマゴ

でもなく母子會と云ふても無い出席した者の中には兒童の母もあり兄もあり父も姉もあつて要するに兒童に直接關係の深いものである唯家庭との聯絡上必要で催された會である同校長長谷川一郎氏か先づ開會の辭を述べられ村長宮崎嘉重氏が家庭と學校との聯絡の必要につき意見を述べられ余も又新山郡長より特に同會の視察を命ぜられたのであるから一通りの挨拶をした學校職員中ても榎本山口兩訓導から通信箋に就いての注意等を述べられて之れが終ると教員諸君は私の受持は尋常二年生です二學年生の兒童を御持の御方は此方へ何年は私何年ば私と言ふので受持教師の身邊に父兄が圓座を作つた而して教師が一々學校にある兒童の様子を各個について話すと父兄も又家庭に於ける兒童の様子を話す同部落の兒童の父兄は二十五名程であつたから遺憾なく教師との談話が交換されたのである。此談話を資料として教師が平素の訓練に注意したなら随分裨益する所あると思ふ又此頭を以て訓練しつへ行けば訓練誌に「一見腦髓の活動敏なるが如くなれども其實なか／＼な代物なり團體遊戲を好まず所謂共同生活の趣味を解せず」と言ふが如き訓練上何等の價値もなき無責任なる評語を以て訓練簿を汚すことが無く

サンヤ、ムスコサンヤオトウサンナドガ、ケガラシタリ、シンダリシテ、ホントニ私ハオキノドクダタマリマセン、ソレニツケテモロシヤハニクイデアハアリマセンカ、ロシヤノヤツヲタタキコロサウトオモヒマシタガ、コドモデハ、ヘイタイニナレマセンカラ、ザンネンナガラ、コイシテラリマシタ、ソノウチニ、コイワニナツテシマヒマシタカラ、イツマデモテキトオモツテラルノハ、オダヤカデアリマセンカラシカタガナク、コイサイシナケレバナリセシ。

次に尋常四年女生一人起ちて左の言葉述べ  
私は大磯小學校尋常四年瀬戸川よねと申します、我國は昔からこれまでせんそーをして、まだ一どもまけたことばありません、ほんといにうれいことばはありませんか、これはちゆーぎなへいたいさんがいのちををしますに、はたらかれたからであります國のためにうちにあつた、へいたいさんがたのれとうさんや、おかあさんや、またはれこどもしゆらなどは、ほんとうにおさのどくでありますから、私どものできるだけは、おなくさめいたしたいとぞんじます。

次に校長左の文を朗讀し



皆様、軍人遺族の皆様、今日は明治三十七八年戦役が平和になつたその勅の出た日で御座います、依つて記念のため皆様を御招待申して聊御慰め申上度存じこの會を開きました、ようこそ御出で下さいまして生徒教員一同喜に存じます、さて皆様の中には、父親の戦死を耳に聞くことは有つても目にその面を見ない孤も御座いませう、又柱と頼む夫に捨てられ朝夕の烟を立てかねる婦孺も在りなされてお座いませう、殊に杖とすがの息子に先立たれ老い行く坂を上りかねるお年寄様も在りなされてお座いませう、國家のためとは申しながら實にお氣の毒に存じます、併しながら戦死をなされた皆様の父親なり夫なり息子なり皆靖國神社に祀られてあります、神として崇められてあります、畏くも一天萬乘の天皇陛下が帽子を取つて禮拜せらるゝ神様となつてお座います、何と有りがたいことではありませんか、又名譽なこのではお座いませんか、ここに並べる千あまりの生徒一同が羨しく存ずる次第もお座います、さは云ふものゝ獨息子を失はれ、老いの身の世智辛い世に獨殘さるゝお年寄や、又百年を契つた夫には別かれ、遺された子供には「私も隣りものも共に満足の意を表して散りたり。」

の太郎さんのやうに父様に手を引かれて」と頑是なくせがまれる母様を、見るにつけ、聞くにつけては同情の涙に思はず袖を絞ることもお座います、今日は日頃お淋しくお哀しく思召すその萬分の一なりとも、お慰め申さばやと存じました、思ふばかりで別に何の風情もお座いません、わざと菓子一折つゝ進みます、菓子は粗末なりとも千人の兒童が同情の涙より出でたるものでお座いますれば、幸にお快くお受け下さるより希望致します、聊なりともお慰になれば生徒教員一同の幸に且喜に堪へません次第にお座います。

了りて各級惣代として生徒十一名を擇び十一折つゝ一人の遺族者に呈せしむ但費用は生徒全体より香料として五厘、一錢と寄捨したるものなり、斯く乳の香うせぬ童の口より慰の言葉を受けたる寡婦孤獨は、いづれも皆感に餘りて兩の袂を濡さぬものはなかりき、且又兒童の同情より菓子を受けては殆ど感喜に堪へざるものゝ如くなりき。

右にて儀式を了へ各級西に東に部署を定め十一人戦死者の墓を拜し香花を手向けたり。

此の如く當日舉行の目的に對しては慰むるも慰めらる

### 小學校准教員檢定試験問題

#### 修身

- 一、禮儀の必要なる所以を述べよ
- 二、社會に對する心得を述べよ

#### 教育

- 一、豫備の必要なる理由を述べよ
- 二、教式の種類を列記し之を説明せよ
- 三、理科教授の要旨を記せ

#### 國語

- 一、左の熟語を解釋せよ  
參差、前半生、竹馬の友、骨董、あかず思ふ、
- 二、左の術語を例解せよ  
分別書方、送り假名、句讀、句、文、
- 三、左の文の解釋

一、人の生をこの間に託する者歐亞と亞また皆極目標鼻心性の體固より軒經あることなし但し面言語の異なる固より論するに足らざるに往々彼を尊び此を卑む誠に謂なき至なり嗚呼人為の區劃曷ぞ天理の平均を制するを得むと石標の下に彷徨して躊躇去るこも能はず既にして鞭を執りて起ち後方を顧みれば則ち旅ははへど六年の間も住み馴れし歐羅巴洲の山川を一投足のために相分るゝなり首を回して前路を望めば則ち六年がほども立ち別れて夢にのみ見し故郷亞細亞洲の草木と相會するなり。

- 四、左の題にて作文すべし  
わが理想

#### 算術

- 1、三千七百八十間を隔て、立てる二本の柱の間に十七本の柱を等距離に樹て更に柱と柱との間に柱を五本づゝ等距離に樹つるときは柱と柱との間隔幾何となるか
- 2、3.14159×0.8を計算せよ
- 3、大工三十人にて十五日に成すべき工事を此六分の五の人数にて成さしむるときは幾日延ぶべきか
- 4、毎日九時間づゝ歩み十二日にて到着し得べき道程あり徒歩と人力車に乗るゝ速度の比は3:1なりとして此道程を人力車に乗り九日間に旅行せむとするには毎日平均幾時間づゝ旅行すべきか
- 5、或會社の有志者十六人にて五十圓を恤兵費に寄附するに之を各自の俸給に割り當て、出金せむとす此内俸給五十圓を受くるもの二人、四十圓のもの三人、三十圓のもの六人、二十圓のもの五人各一人の出金額幾何なるか。

#### 地理

- 一、我國工業の有望なる所以を問ふ
  - 二、樺太の價値を述べよ
  - 三、歐洲西部の氣候を問ふ
  - 四、左の地につきて知る所を記せ  
安東縣、モントリオール、稚内、
- 歴史
- 一、壬申の亂源を問ふ
  - 二、北條泰時の傳を記せ



三、明治七年征臺顯末を記せ

博物の部

一、人間の呼吸作用を説明し得べき簡明なる圖を畫き各部分の名稱を記せ

二、變態をなすとは如何なることを云ふか例を擧げて説明せよ

三、風媒花、蟲媒花を説明し各その例二三を擧げよ

四、長石は風化すれば何になるか且その各効用を述べよ

理科

一、水の沸騰點と其面を受くる氣壓との關係を説明せよ

二、避雷柱の構造及び其作用如何

三、酸、鹽基及び鹽に就て知る處を記せ

四、石鹼の製法及び其種類を問ふ

裁縫

一、腹巾二丈八尺の布あり袖丈一尺六寸五分身丈二尺六寸仕上の本裁被

布表地を裁んとす此後丈幾何裁方圖解及積方を記せ

二、左の事項につき記せ

1、前題に要する裏地總丈の出し方

2、本裁鈎衿の積り方公式

三、實地 六分衿の衿(上前)を作れ

### 尋常科准教員檢定試驗問題

修身

一、社寺に對する心得を述べよ

二、公益とは如何なる事か例三つを擧げて説明せよ

増すべきか(比例にてきけ)

珠算

一、一升の價七十八錢の酒七石八斗の代金如何

二、金拾八圓九拾六錢を二十四人に等分せば如何

地理

一、北日本の火山脈を列記せよ

二、我國人口につきて述べよ

三、左の地につきて知ることを記せ

久留米

歴史

一、崇神天皇の朝に於ける重なる事蹟を擧げよ

二、元治甲子の變に就きて記せ

### 尋常科正教員試驗檢定問題

理科

一、夏日氷を包むに毛布又は綿層を用うる理由如何

二、虫目鏡を用ひて物体を最大大きく見んとするには之を如何にすべきか

三、アムモニアの製法及び性質を記せ

四、蠟燭の火焰の構造及び其の光明を發する原因を説明せよ

理科(博物の部)

一、魚類の運動法を説明せよ

二、砂糖は何より製するか

三、昆蟲と花との關係を述べよ

四、石灰は何より如何にして製するか

音楽

教育

一、發問につき注意すべき件を述べよ

二、尋常科第一學年の初期に於ける國語教授上の注意如何

三、修身科教授の要旨を述べよ

國語

一、左の語句を解釋せよ

科學的精神、こぼしにくれた、みんなが叫んだきたん、直接國稅

權利義務、

二、左の漢字には假名を施し假名の語には漢字を充つべし

無慚、駐劄、テイチイシンセツ、ミツセアのカンケイ、シキカン

トク(サシツノコト)

三、左の歌を解釋せよ

世にある人はたれも皆 自立自營をはかるべし

着實こそは功を成せ 身を誤るは投機なり

他にのみすがる奴隷心 奴隷の心持つなめめ

四、左の題にて作文すべし

克己

筆算

一、日の出午前六時四十七分にて日入午後五時三十二分なるとき夜間は

幾時間なるか

二、次式の値を求む

$$(3\frac{2}{3} + 12\frac{1}{4} - 7\frac{1}{2}) \times 4\frac{1}{2} - 1872$$

三、甲一人にては二十四日を要し乙一人にては三十日を要する仕事あり

甲乙協力せば幾日に成就するか

四、二十七人か十五日間に仕上べき業を九日にて仕上げんには幾人か

樂符論

一、高音部譜表并に低音部譜表中に左の音律を記載せよ

ハ、ホ、ニ、ハ、ロト(高音部)

ロ、ト、ハ、ニ、ハ、イ、ヘ、(低音部)

二、一嬰を有する調と 三變を有する調は何調と云ふか且つ其の有する

所以を問ふ

三、拍子に於て詳説せよ

圖一畫

用器譜

一、用器譜教授上注意すべき要件を擧げよ

二、一邊一寸五分の正五角形を畫け

三、定圓及定圓外に一點あり之れに觸るゝ圓を畫け

自在畫

バケツ(寫生)

實物の他に一物を加へ陰影を施すべし

但し鉛筆、毛筆適宜とす

國語

一、左の語句を説明せよ

執着、完璧、鞞殿の下、大夫判官、客觀的、萬乘の主、選屠あり

後塵を拜す、爪田に腰を納れず李下に冠を正さず、桃李言はざれ

ども下自ら蹊を成す

二、左の文章を解釋せよ

かゝるほどに神無月の二十日あまりの頃はからざるにとみの事ありて都へかへるべきになりぬその心の中水壺のあとにも書きながしがたし露なざる境はもとより望む所にあられども故郷にかへる



喜は朱買臣にあひたる心地す  
故郷へかへる山路の木がらしに

おもはぬほかの錦をやきむ (東園紀行)

- 三、時の助動詞を換げてその變化及び動詞と接續する有様を示せ
- 四、左の題にて作文すべし

わが書齋

体操

筆答

- 一、學體屈膝運動の教授法を詳記せよ
- 二、首及胸の運動の目的を問ふ

歴史

- 一、推古天皇の朝に於ける重要な事蹟を擧げよ
- 二、院政に就きて記せ
- 三、竹内式部の傳を記せ

珠算

- 一、百目につき六拾七錢八厘の購三十七貫五百七十匁の代金如何
- 二、貳千九百六拾六圓九拾九錢を七百八十七人に等分すれば如何

算術

- 一、四十七人にて寫眞をとりしに其代價三枚八圓にして焼増一枚は四拾錢なりと云ふ各人一枚づゝ得んとするには何程づゝ出金して可なるか
- 二、或戦役に於て第一回の戦争の終りしとき其の兵の五分の一を損したり因りて更に五千人の援兵を送りて第二戦を試みしが其の時の兵數の十三分の一減じて殘兵一萬二千人となりしと云ふ初めに戦せし兵數を求めよ

- 三、三十五日間に仕上ぐべき工事あり今十六人にて毎日六時間づゝ働きて二十日にて漸く五分の二の業をなせり約束の期日までに殘業を成し終るには毎日八時間づゝ働かしむるも尙幾人の不足なるか
- 四、或商人その資金を二分し二種の事業に投せしに甲種よりは三分乙種よりは二分の利益を得總計金四百九拾圓を利せり然るに若し此の資金を反對に用ふるときは利益十圓を増す可しと云ふ此の人の資金が問ふ
- 五、次の根を小數二位まで求めよ

74353.328

教育

- 一、我國小學校教育の要旨如何
- 二、教授に於ける獨斷法と啓發法とを説明せよ
- 三、假名教授に於ける教授の段階を説述せよ

修身

- 一、各自の知れる諸徳の名目を擧げ之を分類せよ
- 二、自體に對する心得を述べよ

### 專科試験問題

英語

- 1. We use the word salt very often in the sense of living or food. We say of a poor man, He can scarcely earn his salt; and of a good-for-nothing, He is not worth his salt, as it that article were the one thing necessary for a man's living when rome had abund-

ant stores of salt in her Jerman mines and little money in her treasury, she used-so the story goes-

tiopay her soldiers partly in coin, and partly in salt, hence the term 'palary' or salt money' this may be the origin of our use of the word in the sense of means of living.

2. Whoever can make two ears of eorn, or two blades of grass to grow upon a spot of ground where only one before, would deserve better of monkind and do moue essential to service his country than [the wh ole race of politicians put to gother.

3. 前二題に於て underline したる語の mood を問ふ

4. 次の動詞の conjugation を問ふ Bear, begin, come, eat, drive, ball, bly, lay, let put teach.

- 5. a 鐵は人間に絶強の護を指示
- b 私は今歸つたばかりです
- c 貴君は明日學校へ行きますか
- d 貴君は私に其の本を貸して下さいませんか

讀方

ロシアノ第四讀本 五八頁より五九頁

体操(兵士)

- 一、射撃の効力は正しく銃を使用するの外何々に關係する。

- 二、混用照尺を用ゆる場合には通常何れの列の高き照尺をさる。
- 三、散兵の地物を利用するは何の爲か

手工

- 一、平鉋の臺を畫き各部分の名稱を記せ
- 二、厚紙細工を教授するに當り注意すべき要件如何
- 三、粘土細工にて粘土の素焼法を問ふ
- 四、竹工に要する小刀の研磨法を述べよ
- 五、高等一二學年に手工を課するに當り要する教授細目を左の條項を參酌して作れ(但し一學期分とす)

兒童數各二十名 教授時間一週二時間一學期十五週とす

課すべき手工の細工名 工具の名稱及數

製作せしむべき品物の名 材料名

實修

- 一、色紙にて正五角形を切り貫け
- 二、各自の意匠により左記の寸法以内に於て狀押を作れ  
長一尺 巾四寸 材料杉

以上四時間

商業

- 一、左之語の區別を問ふ  
(イ) 貸貸借、使用貸借、消費貸借  
(ロ) 動産、不動産  
(ハ) 價格、市價、物價
- 二、左之各種保險を説明せよ  
相互保險、自家保險、共同保險、再保險、重覆保險
- 三、銀行預金之種類及び説明を記せ



- 四、我國兌換紙幣發行制限法之主要を記せ
- 五、普通倉庫業と保税倉庫との區別并に貨物庫入及買入手續如何
- 六、左之取引を仕譯し且つ取引上使用する小切手及爲替手形の雛形を示す

九月十日神戸市港川屋清蔵へ金參千圓也の商品を同店と損益平分之組合勘定にて積送し此運賃金拾四圓也鎌倉銀行宛小切手第壹號にて支拂ひ又積送品に對し金壹千圓也の爲替を取組み鎌倉銀行にて日歩金四錢の割にて割引し手取金は同行へ當座預金とす手形面金額壹千圓也、受取人株式会社鎌倉銀行、支拂人港川屋清蔵、振出人神奈川縣鎌倉町小町六十番地(受驗者氏名)支拂地神戸市兵庫松屋町八番地番號第六號、期限日附より七日間の確定日拂、以上

音樂

- 一、音程に付き詳説せよ
- 二、半音階的半音と全音階的半音とは如何
- 三、音程の轉回によりて生ずる結果を問ふ
- 四、曲想に關する記號五個を掲げて其例を不せ

教育唱歌集(八) 瀧、春の野  
小學唱歌集(三) 菊

裁縫

- 一、普通フランチル地を以て大人並シャツ裁方の圖解をなせ  
但説明し難き所は分解圖を示せ
- 二、二丈五尺の布を以て本裁單羽織(棒まろ)女物裁方圖解及積方を記せ

雲南紀行

第十八信

雲 瀾 生

苗の歳末 此のあたり棕櫚批把などの樹野生す山のかなたこなたに見ゆる細道は苗の通ふ道なるべし前後左右に萬重の山にして大道とはいへ分水嶺らしき處を通るなり今日は新州の市と年末との理由にて苗の出で來ると甚だ多し男も髪を前頭部に結び櫛をさす例の長き手拭を巻きたるもあり衣物は左衽のも右衽のも見受けたり眉の太き特徴なりといふ人もあれどあながちそれにも限らざるが如し體格は漢人より稍小なり女はやゝ日本服に似たる衣服をまどひ右衽あり袖は廣き筒袖にして處處に文ある布を縫ひつけ裾はひざ前垂の如き幅の廣きものをまぐ遠く望めば女學生の袴の如し中には海老茶色のを用ふる者さへあり所によりて残らず海老茶色のを用ふるもあり貴州のこなたに多く見えたり髪は前方に高くまげて布にてまく此形も何處やら女學生に似たる處あり頸には銀の頸輪と鎖とをかけ耳にも銀の環をつく苗の中にも稍身分あるものなるべし顔に脂粉を施さず容貌も日本婦人に似かよへり男女とも一般に日本人に似たる處多し顔の容子も引きしまりて賢びなりこれを教育せば面白き結果を見るを得べき

但袖丈裁切 一尺五寸  
身丈仕上 二尺六寸  
袖 附 七寸五分

- 三、左の事項につきて記せ
- イ、普通紋の大きさ
- ロ、紋所の位置
- ハ、紋の置き方
- ニ、背紋の縫合せ方
- 四、
- 一、運針教授の目的及其方法を記せ
- 二、高等四學年生に授くべき左の教材につきての教授案を作れ  
本裁綿入羽織女物裁方、積方、襟附
- 五、實地
- 綿入袖(女物)袂の丸一寸但左袖
- 穴かゞり 一
- まつり裾 三寸

農業

- 一、小麦、大麥、裸麥の三種子につきて同時に澆水選を行はんとす如何なる順序になすべきか
- 二、肥沃なる土壌の具備すべき要件如何
- 三、糞肥施用上の注意如何
- 四、蠶兒掃立の一法を問ふ
- 五、常雇と請負雇との得失を比較せよ
- 六、播種の各方式に付二種づゝの例を擧げて説明せよ
- 七、左も題目に付高等科第四學年生に教授すべき教授案を作れ

題目 養豚の利益

か惜むべし今や漢人の大なる壓迫の下に屈して山かけ谷間に潜み昔さかむし面影だになし。

苗の女と改良服 誰かたはむれのすさびかりけん日本には女子の改良服として筒袖に袴この様子がいかにも今日見し苗の服装そのまゝなり色さへ同じ海老茶とは改良か改悪か進歩か退歩か髪形の形まで似たるもをかし彼等は今や年末の用意にとて脂白菜等を求めて家路にいそぐ。

紅梅 平龍橋のたもとには紅梅の今を盛と咲きたるあり東風ふかば昔の人のうたひしも今や我が身の上となる此川は瀼水の上流なりとぞ。

紅梅や瀼水の上の橋のもと

槍を持ちたる老人の來ると見しは槍にはあらで烟管なり長さ四尺餘鷹皿の直徑一寸五六分吸口の長さ七八寸槍の穂と見しはこの吸口なりけり時々は杖の代用をもあすあり支那人の烟草を好むこと甚し終日烟管を手より放たず一般の勞働者は働きつゝ烟管は口にくはへ居れり十二三歳の小童にして己に水烟台を手をにせるを見たり。

水烟台 これは一稱の烟管にして凡て金屬にて作り烟草の烟は一度水をくぐりて口に來る様に造られたる



ものなり七寶のものあり或は花鳥を彫刻せるものあり漢口はこの名産地なりとぞ價三四圓より五七圓に至る今日は新州に宿る筈なり今日の行程左の如し。

施秉—十二里、—草堂關—十里、—沿沙塘—十里、—藍橋塘—五里、—楊柳塘—五里、—十里塘—十里、—黃平州(即ち新州)

この知縣は雲南の人とかにて余等の爲に大に便利をはかりくれたり夕方馳走を饋り來る今日も朝食の他は例の十二文の辨當のみなれば知縣よりの馳走山海の珍味にもまさりて覺ゆ今日の宿は行台といふものありこれも知縣の周旋なり。

行台　これは支那高官の旅行する時の用ある官立の旅館にして一般の者はいふに及はず官吏とても普通の者は宿る能はざるなりされば外見は可なり立派なれども内に入れば豚小屋然たるものなり一年に二三人の入宿る位の事なれば蜘蛛の巢塵埃みち／＼てたゞ古寺に異ならず間敷も可なりあれども雨漏り床朽ちて目もあてられぬ様なりさはいへ知縣の厚意あるかにやは思ふべき普通の宿にくらぶれば人棲まぬだけに奇麗といはばいひもしつべし料理人は無論主人とてもなくたゞ番人ありて錠を開くが關の山なり御馳走は衙門より贈り

支那の商人は決して客を呼ばず來るも去るも我不關焉求め來る客に對しても愛敬を賣にあらず御世辭を振りまくるなし然るに此處の者は珍しくも客を見かけて呼び入る余等も立寄りて轎夫の食事する間憩ふまことやぬづま路の殖生の小屋賤が伏屋と名にはきけどかばかりにはあらざるべし石と土とを聚めて積上あげたる上に芝芽を刈りあつめて屋根に葺けり風の神の出入自由自在なり旅客とおぼしき二人せまききたなき台の上は薄き破れたるぼろをまとひて打ちちがへて心地よげに眠れりかくても夢は結ばるゝものよとせとるに寒心せり片腕なき男火鉢とは名のみなるもの、内よくろく煤びたる蛸魚壺の如きものを入れて持ち來るこれなん湯を沸かす器にしてこの湯を煤びたる茶碗に入れてきたきき婆々の手鼻かみつゝ持ち來りて俯むししもの余も飲みかねたるも同行の一人は取りて心げにのむげに渴したるものは飲をねらばずとはかゝる時のとなるべしかたへの硝壺然たる器の中に何やらぶつゝ煮ゆ立つを見れば白菜にして一種の惡臭あふれ出づいざ行かんとて三文の茶代否湯代を與へて立つかくても主人は大恐悦なり飯一人前さへ六文なるに湯一杯に三文とは彼等には意外の收入なりしゆり六文の飯代必しも廉る

來るを法とす此所にも寢台といふは藁の抹の上なりかねて用意の油紙どもの上に蒲團を展べ腋を枕し夜を明すなり番人への心付として一人百文ほど與ふこれ今夜の宿泊料あり夜中何事やらん門前の騒しきに通譯に問へば今夜は外客あれば盜賊などの來らざる様盜難避けの呪を念すなりと予かくだにすれば門を開きて寢とも安全なりと迷信せり。

鞋の枕　一月廿二日朝五時に起き出で、段を呼び起して出發の用意を整へしむ床のまはりそこもと取りかたづくれば枕の下の藁の中より何處の誰かはき捨てけん古鞋のかゝどのあたりの破れたるが二つ三つ轉び出づ坊主枕船底枕空氣まくら伽羅の枕もあるものをかちかざならぬ草鞋の枕エ、いま／＼しと取つて投けすつ轎に乗りて出づれば何々馬棧何々客棧などあり馬棧とあるは馬宿客棧はすなはち旅人宿なり中々官棧一品官棧などあるは我が國の軍用旅舎ともいふべき格なれどこれも豚からでは宿りがたし。

三文の茶代　町を離るゝこと數町にして坂路にかかると轎を下りて徒歩す江部氏も共に歩す小坂の上五里塘といへるあり此處に一膳めし否むしる一奴めし屋あり彼等は飯を秤にかけて賣る轎夫等こゝにて朝飯す

はあらざるなり赤色の米に今の白菜と竹の筒の中に入れたる豚の片一二片その他には唐辛子あるのみされど此の唐辛子は彼等に取りては無上の珍味にて何やらの飲食もいかにかこれに及ぶべき。

金峯山の山畑　黃猴塘をすぐれば一望千里ともいふべき見はらしの景色いとし左手に見ゆる山は麓より項まで段々美しくきざまるこれ金峯山にして苗の耕す畑あり漢人種にせばめられてかゝる山の上までも彼等は耕して畑とはしつるなりかく苗地に近ければ苗の徘徊するもの多し。

重安江の市　晝やゝ過ぎてやゝ空腹を覺ゆれば親兵に命じて柑子と餅とを求めしむ餅には豚の脂と少しばかりの鹽氣をつけたり日本ならば見るだにいとほる者ものなれど思はず舌打せしもをかし味感を助くるものは香色器などいろ／＼多かんめれど時と處とはまたろのひとぞいはまし大人轎の中にて奉るさらぬだに珍しき洋人をもの見高き支那人たかり來てうちまもる今日は此所の市日として近き山中に住む苗の良々白苗花苗なんど出來りて物を求め或は交易す頭も赤き頭巾めきたるものを被りたる二人の娘あり姉妹なるべし赤苗とはこの事が上衣にも袴然たる處にも小供の洋服めきた



る襪を附くるあり花苗とはこれなるべし頭に白き布を  
つけ衣服も白きを穿ゆるは白苗ならん黒き出てたちは  
これを黒苗なるべき炭薪など持來りて交易す頭の様子  
頸輪耳飾等前の苗の如し子供を負ふる妙になる繡ある  
四角の布の四隅に紐つけたるものを用ふ年末の用意に  
やまれ、物を求めて歸る五時大風洞まつく夕げの烟  
下よなびきて晝のやうなり。

うちなびく大風洞の夕げふり

およいはこゝにやどりもどめん

今日は終日雲の中をゆく雲の中人とやいはまし今日轎  
夫足を傷く雲南に行くまでは轎夫の足自分の足と異あ  
らず薬を出して手當を加ふ今日は寒さきびしくして三  
十三度よ下ることよひの宿は源發棧なり。

對子 二十三日朝五時起床例の如く用意し顔を洗は  
んとて水を呼べばどぶ水の如き濁水を持來るるのまゝ  
うち棄つ朝食もかゝる水にて炊きたるかと思へば手も  
つけられずわづかゝ箸を取りて出發す何れの家も迎年  
の用意は忙しく家毎に對子といふものを入口に貼る赤  
き紙の長さ三四尺巾六七寸のものに聯句をかきたるも  
のありその二三をあぐれば。

此間僅可談風月

相對何須問主賓

桃花柳絮春開弄 細雨斜風客到門  
一窓佳景王維畫 四壁青山杜甫詩  
の如し入口に貼るを常とすいかなるあばら屋にも必ず  
これあり我が國の門松の如きものあるべし且雲南省近  
く及び雲南に入りてよりは門毎にこの對子の外に門松  
ありこの門松はたい松のみよして竹も七五三も橙子も  
ゆづり葉葉のしやれはなし對子は正月のみならず嫁取  
の時も用ふたゞ文句に差異あるが如し。  
寒氣 大風洞を出づれば奇嶺ありてその下に洞穴あ  
り雲龍洞と彫りたる見ゆ今日の寒さは一きは酷しく骨  
身よしみわたる。

夜をさむみ尾花か袖よおく露は

玉とこほりて春のはつはな

わけのぼる高峯の霜のいとしろく

去年のかれ枝の花ぞさきける

このあたり箱根の山越え似たる處榛名の山越に似たる  
處ありて面白し而して山々も妙義山のあれど曾て共に  
旅せし友にはあらず寒さは足の爪先よりしみわたり來  
れば毛布と蒲團の中にもぐりて目のみばち、運ば  
れ行く。  
食物の循環 便所は特別の設なく小便は何處にても

勝手次第大便も道のはたに出て、ものすれば豚犬など  
争ひ來りて食ふ小兒などは尻まで嘗め行くを常とす  
かくして成長せし豚はやがて人の食糧と上るこの食物  
の排泄られしは又豚の食料となるされば一定の食物は  
人と豚との間を循環して止まず故に支那人は豚の糞と  
なるべき分量丈新に食料を求むればよき道理となるな  
り。

餅搗き 迎年の用意は餅を搗くはからも大和も同じ  
ことなりされどその臼に至りては面白しといふべし長  
き丸木に長き溝を鑿ちたるものにて長さ三四尺直徑五  
七寸もあらん木なり杵の形も奇妙なるものなりかゝる  
臼にて搗きたる餅はおはぎと餅との間の子然たるもの  
なりされど到る處よこの餅ありて余等には何よりの辨  
當となりたりき。

何れの家も軒かたむき屋根壊れて正しき形のもの稀な  
りこれ柱は丸木をその儘に用ひぬき穴たるき穴共に正  
しく穿らずに一寸さしこみたるばかりなればなりかゝ  
る家にも例の對子は立派に貼りつけらる。

財源湧進 利涉大川

以て彼等が慾張り加減を見るに足るべし。  
山越 山を越え谷をわたるは毎日の様をれど今日は

や、高を山をこは何といふ山なりけん名はもらしたり  
雨雲山頂をおほひ裾野はつら、光れり白がねの木よ水  
晶の花咲きたるが如し。

おく霜は木々のこすゑにつらとして

み山に春の花ぞさきける

立ちわかれ貴州の山をこはくれば

ゆくての路をどぞすしらくも

高山の峰こはくれば霜しろく

たひかうの中ゆめなりかたし

晝する頃人家三四軒ある山里に出づかゝる處にも春  
や來らん迎年の用意にせはしげなりこゝにも例の對  
子は赤く張られたり。

碧水環門龍起舞 丹山繞室鳳飛鳴

二時過ぐる頃より覆ふり來り山の中腹よりは雲立ちの  
ぼる。

うちこゆる峰の岩間に雲わきて

貴州のたびの寒くもあるかな

今日は野も山もつら、に飾られて水晶世界といひつべ  
し三時頃楊老に著し三元官棧に宿る官棧とは名のみ  
に際小屋に異ならず。

微恙 寒さきびしかりし上に中食の玉子も餅も手に



入らざりし爲寒さと疲と空腹とにせめられて心地常を  
らず豚小屋も厭ふ遠なく宿につくや否や伏所に入る段  
に命じて何か求めしめしも駄菓子一つ柑子半分だに得  
ること能はざりき。

銀の勘定 今夜通譯李に十二兩七錢渡す目方されて  
十二兩二錢五分あるのみ此馬蹄銀は常徳恭順和にて李  
の受取りてそれ〴〵目方を書入れて余の受取りたるも  
のなるが今その銀を元の渡主に返さんとすれば四錢五  
分の目切となりて始の價に通用せず妙なる國柄といふ  
べし。

明日の用意にぞて段に命じて玉子を買はしめゆで玉子  
となさしむアンチピリンを飲みて寝ながらこの日誌を  
かく今日は氷點以下ありしならんも夜は稍あたたか也  
今夜の宿料百文茶代十二文半炭代十文これが今夜の宿  
料あり此宿にこの宿泊料決して安直ならざるなり。

親兵の鐵砲 通常の親兵と稱するは只の苦力に赤き  
着物をきせたるのみにて何等の威嚴も權力もなし一見  
猿廻の猿の如しするに今日來りしは貴州中道先鋒頭隊  
と稱するほんものゝ兵隊にして銃と劍とを帯び實彈を  
さへ持ちたるものありされど何時手入せしともわから  
ぬ錆びくさりたる銃を倒にかつぎ草鞋脚絆に笠を被れ

の安全と苗の反亂に備へしぞ今はくづるゝに任せても  
るものは雨と月影とのみかり途中乞食多く十文の慈善  
を施せり越ゆれど越ゆれど震みたる山見ゆ。  
こゆれども山また山々雲南は

いくへの雲のあなたなるらん  
大晦日 今日中曆の大晦日なり田舎なる故郷には  
二度目の迎年に多忙なるべし此處には日の足三四尋も  
あれど日本には今や日暮なるべし陰膳もこなたに向け  
てすゑられけん。

年の迫や寫眞も今日は一人前  
それを思へば何處やら腹ふくるゝ心地す。  
かけ膳にはらふくれけり旅の暮  
五時黃絲縣につく恒豊官棧に宿る例の豚小屋なり陰曆  
ながら大晦日なればとて薄暗き一筋の燈心を掻立て行  
李の中より大切のものゝウイスキーを取出して相酌む  
せめてもの心やりなりさらぬだに動きやすき旅の心何  
ぞといふ時はことさら萬感來往す老母に代りてよめる

つもりゆく我が身の老はよそにして  
くれゆく年のよろこばれぬる  
又妻にかはりて  
ゆく年は残すくさし我が世には

るさま兵士とは受取れずかゝるもの一朝有事の時何の  
用にか立たん。  
用心には繩を張れ 此あたり山賊の出沒多しと例の  
支那人の大げさなれば餘り信じがたしと雖用心には繩  
とやら朝は早く出で、夕は早く宿取るに如かずと支那  
内地旅行の原則に従ひ朝は睡きを忍びて出立つを常と  
せりかゝる處に山賊ばら何程の事かあらんと思へども  
千金の子は盜賊に死せずとやら大抵日のある内に宿を  
求めき。

一見煉瓦造 立派ある水成岩の層を成したるあり住  
民は之を用ひて家及び塀を造る遠くより望めば煉瓦造  
の如し只小く且不潔なるを憾とす。  
響琴峽 今日久し振にて天氣よく心地いふばかり  
なり鎮遠以來はじめての好天氣なりホイイ段は先づ出  
發して宿を求むるを常とせり晝頃響琴峽に到る山のは  
ざまを出づれば急坂あり坂の下には湍々たる溪流あり  
て橋を架す風景絶佳なり秃筆のつくすべきにあらざる  
を下りて寫眞す。

哨坊 とは前雲南總督岑氏の作りしものにて五七清  
里毎に道の傍にあり煉瓦の一種にて積上げたる五間四  
方ばかりの建物なりその當時は此處に兵士屯して道路

いつくの野へに年むかふらん  
昨夜の微恙ぬぐへるが如く快し健康ある身體我れなが  
らありがたしされど彼此と物をねもへば夢まどかとな  
りがたし。  
草まくらむすへる夢のさめやすく  
いく夜かきとし谷川のおと

第十九信  
谷濠關 一月廿五日、昨夜は中曆大晦日とて隣の支  
那人何やらん賑しく語りあかし團樂の樂うらやまし  
晝少し前に谷濠關に至る聯句あり。  
下關塵壙三十回 上抵嶠函百二雄

貴定の正月 二時頃熙春門を入れれば即ち貴定縣あり  
何れの家も元日とて皆業休み門口に對子やら何やら様  
々の色紙を貼れり今日をはれど着飾りし老幼男女をこ  
かしこゝ群れ遊ぶやゝ地位ある支那婦人は常には屋外  
に出づること稀なれど正月のみは着飾りて外に出づる  
習なりとか面白きは何れの家も門を閉ちて只纔に通路  
を残すのみかくて長くこの門を開かざるをば名譽とす  
るよし赤き青きはた紫の着物きたる小供羽子獨樂手毬  
など、遊ぶ支那の羽子は日本のそれと羽根こそ同じけ  
れ玉の處は布にて作りたる袋に何か入れたるものなり

通信雜錄



而してこの羽根はつくにあらずして小き運歩の足にて蹴るなり甚だ巧にしてその様子また面白し小き小供の頭巾これも面白し祭禮のだしに見る唐子おどりの唐子そのまゝなり又大道の真中にて散を弄して五文文籠の勝負を争ふもあり大なる傘をひろげたる下に大道商人の餅蜜柑など商ふものあり男も女も小き火鉢を籠に入れた股の間袖の中などに入れて暖を取ありさらぬだにぶら／＼する國民今日を晴とぶらつけり今日は蕨城橋までゆく豫定なりしを先發のボーイ段壇に此處に宿を求めし爲やう／＼二時少し過ぎたる計也さればとて親兵一人召し具して支那町見物又出かけたなりもとより物見高き支那人珍しき洋人來れりとて後よりぞろ／＼列をなして隨ひ來る余等は物見に來れるにはあらで見ものにせられに來るありけり二三町行く程に見物人はます／＼加はりて四五月頃池の中に生ずる科斗の暖き汀に集れるが如く大小取ませたる頭何れも先を争ひて附き纏ふ歎迎せられたり思へば腹をたつるにも及ばず。

段の勘當　ボーイ段今日恣に此處に宿を取りし故二言三言小言いひし怒りて何處へか去りて在らず余等の食事中酒氣を帯びて歸り來りしかば池田氏之を叱せしに腕を扼して氏に向ひ「バーニー」にて力む蓋し汝等

を懼れず此腕を汝等に與へんどの意あり薩摩猛夫池田氏いかで獸すべき手近にありし器を取つて投げつ飛びかかりて彼を歐き伏す通譯李の仲裁によりて漸く事なきを得たり近來の大騒ぎにて一座啞然たりこれが爲に段は直に放逐せられぬ明日よりは一切親兵にて用を辨ずる筈あり彼は長沙以來火に水にかひ／＼しく立働きの酒の爲めにその主に抗し積日の辛勞も水泡に歸せし愚さよ余等はともかくもして行き得つべしされど金なき段は明日より如何にして四十日よ近き劔川までの旅はなし遂ぐらんとうたゝあはれあり意氣地なき支那人の中に彼の如きは寧ろ賞すべし南蠻時代の氣概今猶殘れるにや。

支那語の簡潔　一月廿六日、通譯李常に支那語の簡潔にほこりて嘗て陳榮昌氏日本に來りし時某夫人數萬言を陳べしを李通譯せしに陳氏かばかり長き事柄を僅かに數言にして盡しは何故ぞといひしかばこれ支那語の簡潔ある故なりしと答へしに陳氏も首肯せりなどいふ何ぞ知らん彼が半解の日本語は夫人の詞を盡く了解すること能はずして大抵に胡魔かし去りたるを元來支那語は簡潔なるべけれど彼等の腦力は簡潔を活用する能はざる故所謂中國人等の談を見るに簡單ある事件

にも滔々數萬言を費せり彼等は又屁理屈を好み不合理なる結論を取てすこれ當に屁理屈を好む爲のみならず正當なる論理的結論を見出すことはざるにも因る也。

夜中の一驚　昨夜半すぐる頃物の落來し音してあたり震動す宵にボーイ段を逐出し、故の敵討にもや來けん半夢心地に驚きさむれば池田氏の寢台擡けて落ちたる音ありけり例の寢台とて二つの台の上に板を並べて上に藁ごもを敷きたるがひしやと擡けてかくはなりしなり(編者曰くこの處大々的洒落なり)

此頃の食物　やう／＼山深く入込み來るまゝに何から何まで祿なものなし此頃の献立を述べんに衙門のある處は大抵三四品の食物を饋る故に夕飯はどにかく不自由を感じざれども其他は豚の鹽漬と豆腐白菜さては山鹽の黒きと唐辛の一皿とあるのみ醬油だになきなり飯は例の炊きかけて半頃水を打捨てたるものなればばら／＼として八幡様の御洗米の如し朝などは殊に咽喉へとほらす晝飯とてまた三五文の餅又は點心にてすますなりされば夕飯のうまさも一はこれが爲ならん。

の新しきもの青は二年目のもの也どか聯句も種々にて守制不行元且丸

母恩深如海　子罪重如山

などありあらたまの年立ちかへれど寒さいやましても殆ど堪へかねたり殊に此のころは毎日陰りがちにて空は墨を流したるが如く終日日光を見ず陰鬱いふばかりあし支那人のはき／＼せざるはかゝる天候もその有力なる原因の一ならん梅の花の直盛なるあり。

梅咲くや龜井戸の春しのばるゝ

今年は旅の中に春を迎へ春を送るなるべし。

この春は支那のあら野に旅ねして

花のたよりも知らずくらん

夕方時雨していとさびし。

ゆきくれて山風さむくしくれふる

いづれの里にやどやからまし

宿屋は何れも夜具の備なくたゞ菰藁あるのみげに草枕とは此事なるべし。

さむしろに衣かたしく草枕

かくても夢はむすはれにけり

天候　中曆正月とて到る處に對子の赤きを門に貼る喪中にある者は赤きをば用ひず白青等を用ふ白は喪の

淋しき山路　山は道の左右に峠ち前後に聳ゆかゝる時前嶺後嶺雲漠々とは歌ひけん支那畫の山水そのまゝ



あり見わたすかぎり青きものとはなくたゞカーキ  
色なせる枯草のみなり此あたりの田舎にも正月とて皆  
々今日を晴と木綿の着物をかざりて遊ぶ筈にて羽子を  
つき又は足にて蹴る十時すぎ聽瀑洞といふ處を過ぐ景  
色よし冬枯の山は水もかれて瀑の音も絶えて久しき様  
あり公任の卿ならましかば名こそながれてとよまじし  
ものを十一時頃鬻城橋につく昨今の沿道は一般に入烟  
稀少なる山里にして此處も四五軒の小屋然たる家ある  
のみ。

龍里の宿 今日七十清里來たりしが割合に道よか  
りければ五時半に龍里につく縣衙門より雞鴨玉子あど  
饋り來る今夜の宿は行台なり。

一月廿七日

石炭 貴陽のこなた四十里のあたりより狐の穴の如  
きもの道の側處々にありよく見れば石炭を掘り出す穴  
ありけり炭層は近く地下のありと見ゆ僅に一人出入る  
程の穴より掘り出すなり竹の樋よて排水するらし正月  
とて何處にも實際に掘り居るものあし入りて見るを得  
ざりしは残念なり炭質も悪しからず行く／＼石炭の多  
きに驚けり處によりては炭層の露出せるさへ見ゆ若し  
このあたりより大仕掛に掘採して鎮遠まで送りそれよ

せ來りて色々と心をつけやがて甘酒ばせを入れたる湯  
など持來りて侷むささの惠に報いんと意なるべし昔  
の韓信は漂母の憐を受け今の旅客はボーイの振舞に纒  
に半日を饑を凌ぎたり。

五百重の山 某の筆にありけん五百重の山それは昔  
の物語今眼前に見る景色筆にも口にも及びがたし貴陽  
に入る十清里ばかりのこなたに轎を停めて顧みれば圓  
錐形の山兀々として打重り末は霞につまされたり此あ  
たりにも狐の穴の如きより石炭を採掘す現に計畫中を  
る雲貴二省を通じ鎮遠州を経て湖南の湘潭に達する  
鐵道落成の曉にはこの石炭採掘は極めて有望の事業と  
あるべしとへ此鐵道全通せずとも貴州省城より鎮遠  
まで四百清里(日本の約六十里許)の間にだに敷設せば  
この利實に計るべからざるものあらん石炭はこのあた  
り一面なり。

貴陽 夕つ方貴陽につく貴州一省の首府さすがに賑  
かなりされど不潔なることは例のごとし年始の回禮に  
や禮服せし人門毎に出であるかく禮服せし人の大道  
の真中に蕎麥の立食をなすには聊か驚けり又煙草の中  
にある繪を一枚づゝ賣り歩くもあり此處にも多きもの  
は犬と乞食となり段永濬氏人を城外まで出して迎ふ例

り舟にて運び下しなばその利莫大なるべし石炭の無盡  
藏あるさへあるに勞銀また廉し若し鐵道を鎮遠まで通  
じ一方には此を輸り出し歸りは内地に賣捌くべき雜貨  
を運び入れなんには一舉兩得陶朱の富も一炊の中を得  
らるべし。

ボーイ段 一昨日逐出したるボーイ段に追及ぶ先日  
より足を痛めたる段今日はたのむ木蔭の主人に捨てら  
れ屠所の羊のどぼ／＼と纒に張蘇二人をたよりて行く  
長沙以來彼が忠實に立働きを思へばいと不憫なり彼  
も人の子なり一旦の過にて從來の心づくしを無にせし  
ころ氣の毒あれされど余等も鎮遠より無理算段しての  
旅行なれば彼に與ふべき餘財なく囊中僅に百文を餘す  
のみこれを與へなば余等は今日の中飯にもさしつかふ  
べし與へざらんも不憫なり如何はせんと案ぜしが今日  
夕方には貴陽に達すべし貴陽に達しだにせは其後ほと  
もかくもありぬべし典へんとて終に出して之を與ふ段  
も余等の錢なきを知るものから余等の中食に事かふん  
こと氣遣ひて受取らずさま／＼に勸めて之を受けしむ  
言語通せず風俗はた殊なれども誠は自ら通じけん彼も  
遂に之を收めたりかくて一時間許すぎてとある店に段  
は張蘇二人と休み居たりしが余の轎の至るを見るや走

の先發の建てたる日本國旗をたよりて宿につく今夜の  
宿は鴻恩官店なり縣衙門の來りて何と世話しくる此  
處には落合清宮岩田の三氏あり直に來訪せらる明日一  
日は滞在の筈なり。

一月廿八日

滞在の理由 四あり一に曰く轎夫等元日休まざりし  
を以て一日の休暇を與へたるなり二に曰く余等も長途  
の疲勞を慰せん爲なり三に曰く貴州一省の首府なれば  
見物せん爲なり四に曰く久しぶりに故國の人と會談せ  
ん爲なり既に滞在のことに決したれば今朝は八時頃ま  
で寝ぬ朝より縣衙門の者來りて色々と周旋す。

武備學堂 今日貴陽在留の三同胞に招かれて武備  
學堂に至る學堂は城外に在り余等の行きたる時恰も知  
縣年始の禮に來る小供の乞食十人ばかり前を拂ひ唐人  
喇叭をふき銅鑼をうち其他供廻二十八ばかり引具して  
來るこれ日本教官の許へ來りしかり同胞諸氏不相當と  
稱して出てゝも見ず門前より逐返せり。

不相當 一は一種の禮にて人の來訪せし時此の不  
當をくはせて會はぬなり余等も時々之れをくひ又人に  
もくはせたり面白き禮もあればあるものなり。  
教習公館 この武備學堂は數年前高山少佐の經營よ



成りしもの、よしまて日本教習を具すること甚だ厚し  
武昌長沙常德等よて見ざる所あり公館の如きは西洋造  
りとして硝子窓あり内部の裝飾もなか／＼整頓せり三人  
の中落合景光氏は師範學堂に在職しこの武備學堂にあ  
るは清宮宗親氏と岩田大三郎氏となり此處よて色々  
てなされし中よも。

風呂 は何よりの御馳走なり去去年十二月十二日よ  
常德よて入りしを最終よて今日まで入浴せしこと多く  
垢のつくよ任せ皮膚の色だに見えず只時々河水よて拭  
きたるのみなれば今日のこの風呂は快いふばかりなく  
浦島の子が遊びしといふなる龍宮もかくよと思はれぬ  
浴後とり／＼の御馳走ことに西洋料理西洋酒等久しく  
口にはせざりし珍味佳肴に舌も胃もしびれんばかりあ  
り三千里外に於て同胞よ會し久しく知る能はざりし故  
國の状況を聞き久しく見ざりし新聞を見るを得て無量  
の感禁じがかし新聞どころいへ一月半ばかり以前の舊  
聞あれどかゝる旅の身にはそれすら電報號外の如く新  
しく感ぜられ貴きこと限なし朝鮮のことも此處にて始  
めて聞きたるなり大學の事件も此處にて聞きたるあり  
同胞のよしみ 故國にありては何とも感ぜざる日本  
人もかゝる境に身を置きては互にいひしらぬ懐しき一

上海今昔談

(ついで)

西山 如 松

○ミニスバル初年の事業 居留地成立の初年に於て、  
早く既に一種の市區体を編成するの必要を感じ、時  
日は詳かならねど千八百四十八年の後間もなく、道路  
埠頭委員なるものを置き、市の費用を支辨せんがため  
輸出入税を徴収せしむることとなつた、當時の此委員  
は單よ道路埠頭を造築するが職務であつた。初め領事  
バルホール氏は居留地道路の幅は宜しく二十五呎とな  
すべしといひ、道路埠頭委員及び其委員選舉人等は二  
十五呎にては廣闊に過ぐ、吾輩一包の絹をして容易に  
積卸しする程の道路を有すれば充分である、其餘の要  
せずと論じ、頗る激論の後遂に二十二呎となすに至つ  
た千八百五十年迄は道路埠頭委員の徴収したる歳入は  
僅かに千二百弗に過ぎなかつたが、同五十二年には増  
加して殆んど五千弗に及んだ。

居留地の初年に於ては賦税極めて輕微であつた、此の  
時よ於て道路埠頭委員よ於て、支出すべき費途は、道  
路埠頭の造築及び溝渠の鑿通であつた。  
市區の事業が初めて施行せらるゝに至つたのは、本港  
通商を開いてから九年も後であつた、時當さに本港の

種の情を禁じがたしされば貴陽在留の人々も久し振に  
て故國の同胞に會せしを喜び談はるれよりそれと枝を  
生じ葉を生じ何時はつべくも見えすしヤンメン葡萄酒  
等を酌みては語り語りては酌む連日の飢と粗食を一  
時に醫了したる心地す始は一日滞在の豫定なりしを  
強ひて留めらるゝに明日もなほ一日滞在のことを約し  
夜十二時過ぐる頃辭して宿に歸る。

一月廿九日

馬子の計算法 今朝もゆる／＼起き出で、馬子橋夫  
等に賃金の残額を渡す昨日李天順祥にゆきて各百元づ  
ゝ受取り來りし故今日よりは餘り金に困らざるなり荷  
物の運賃百斤につき鎮遠雲南間七兩八錢餘の荷物は百  
四十四斤あり馬子の之を計算する方法は錢を用ひ色々  
に置きかへて計算すよく／＼見れば算盤の計算に酷似  
せり一種の算法といふべし。

大官歴訪 午後より三氏の案内にて巡撫學政使布政  
使按察使等を歴訪す終りてまた武備學堂に至る明日は  
いよ／＼出發なればとて十二時過ぐる迄語りつ酌みつ  
あかぬ別を惜みてつきぬ名残を留めて立ち歸る。

貿易は輸入に於ては四百二十九萬九千九百九十二弗、輸  
出に於ては千四十萬二千七百五十弗の巨額に達した、  
尤も阿片財貨の輸入額は此の計算以外である、是等の  
輸出入貨物の詳細は知るに由なきも、絹茶に對する輸  
出物品の交換は、此の頃乃至、其後に於て頗る行はれ  
た、此の時交易の媒介として使用したる貨幣はコロラ  
ス即ち棒銀であつて、彼の紋銀の如きは徒らよ輸出入  
貨物の一部として認識せられたるよ過ぎずして、曾て  
通貨の用をなさなかつたといふ事である。

話頭一轉、此歲即ち千八百五十二年は上海よ於て大地  
震のあつた年である、最初の地震は十二月十六日の午  
後十時鐘は響き、洋燈は動搖し、時計は其振子を止め  
圖畫は壁上より墮落する等、頗る劇烈を極め、居民は  
何れも辛ふじて、戸外に避け一時非常の騷擾を生じた  
其震動の方向は南西より北東よ及び殆んど四十五秒間  
繼續せしも、別段さしたる害はなかつた、同月二十七  
日、同二十九日再三の地震があつたが、前よ比し其震  
動至つて輕少であつたといふ。

千八百五十年よ築造した海岸通の地區は現今に於ては  
頗る其面目を變更して居るが當時海岸通りの幅は僅か  
に二十五呎を有し、今の上海俱樂部のあたり廣東路に



接して、大なる支那人の商店及び倉庫があり、其後に樹木があつた、此邊と洋徑濱との間には矮少なる木造の家屋櫛比して此にヒランフオク氏が船具及び種々の物品を販賣する店を開いて居た、其より以北、北京路に至るの間は二個の家屋と燻關とのみがあつたのみである、英國領事館は千八百五十一年の終り建築した、此時及び其後四五年間は蘇州江は一の橋梁なく以て行人皆渡船より往來をしたものである、然し當時は左程不便とも思はなかつたともいふのは、虹口は僅か一の商店があつたのみで其他彼のオールド船渠を建築したコーズナップ氏が自家使用のため一小屋を所有せるは過ぎなかつたからである。

○佛米租界と其常時佛租界は千八百四十八年の間モントニー氏が佛國領事館を開き間もなく同國人居留のため其地所を得たので、千八百四十九年六月よ於て、佛租界を組織せる旨を布告し、且つ佛國領事モントニー氏は相當なる談判の後、凡ろ佛國人として五ヶ所の開港場も居住せんと欲するものゝは、家屋製造所及び寺院、病院濟貧院學校等を建築する地所及び墓地を借るを許す旨の協議調ふたる旨を一般に告げた、是等の事を皇帝よ奏上し勅諭を得て右の特許更に確實と

なつた、其區域は洋徑濱と縣城との間であつて、西は軍神廳、及び廣東公館を界とし、東は黃浦と達するの地となす。

其後二三年の間は城市と洋徑濱即ち居留地界江との間は唯城市の北門より河江に至る迄一の支那街であつた、佛領事は此支那界即ち現今の佛領事館の地内よ於て千八百五十二年支那家屋を少しく形替して之に住居したが、其周圍は頗る間地を以て繞らして居つたといふ此時に當り洋徑濱の上は未だ橋梁なく且四川路の線路に近き所は一橋があつた、又河南路に一橋ありて英租界と往復した、次で米國領事ブリスウオルト氏は英界の北蘇州河を境界とし虹口と稱する一地带を得て米國居留地を設定した。當時外國より上海に到着する書信は阿片船に載せて持つて來たるか、又は不定時に入港する帆船で、六週間の短時期内よ於て香港より返信を受取るを以て異常の事として驚く位であつた、而して其書信は直接上海港へ持つて來るのでなく吳淞に於て之を受取り、此處より小馬を備使して上海に轉送するを常とし、其使用する小馬は大抵一回二十頭位で小供が之を馱して能く其事を務めて居つたといふ事である、書信到着すれば吳淞よ於て旗を掲げて之れが

信號を以て上海に在留する外國人は最も之に注意したのである、而して電信線の未だ架設なく、電信會社の未だ設立なき時よ於てはデント及びジャデン會社其他の商店より各自の所有漁船を香港より送り出し上海よむけ書信を送致せしめた、此等の漁船は揚子江灣内よ投錨しをふして一人使者を駛せて上陸せしめ、其書信を分配して居つたとの話、上海に在留せる外國人は當初よあつては甚だ平安な歲月を送り千八百五十二年の頃には外國商人にして妻を有するもの甚だ稀であつたが、其後數年をへて男子三十名女子若干人相會して舞踏を爲したといふ事である。

千八百五十三年に於て城内に三合黨といふ亂民一揆が起り上海の城市は遂に其年の九月七日を以て賊のため略取せられた、此の時居留民は非常に驚愕をなし、或は義勇團を編制して之を防禦する、或は軍艦の應援を乞ふなどして多少の死傷者を出し一年有半にして漸く治つた。

千八百五十四年七月に至り上海税關をして外國人監理の下に置かしめ、税關監査官は各條約國より撰出する事となつた、乃ち英國はトマース、フランセイウエード氏副領事を辭し英民を代表し、アーハルスマイス氏領

事を辭して佛民を代表し、レライスカール氏領事を辭して米民を代表し各其商賣のため支那税關に出で監査の役をつとめた、是れ即ち支那に於て外國監理支那稅關の起原で、再後其事務よく行はれ、遂に他の諸港よも、此法を行ふに至つたのである。

○千八百六十八年即ち明治初年迄千八百六十一年には揚子江沿岸諸港の外國貿易城となりし以來、上海の商賣上一大進歩を現はした、即ち漢口及九江の兩港に於ては低價を以て茶價を買入るを得、又輸入貨物を此等の諸港に賣り込み巨利を占むるものから、外國人も支那人も共に此の一大商業場裡に入り込み、直に汽船の必要を感じるに至つた、因て其需用に備へんが爲め、各種の船舶を購入して揚子江中に浮べたのである、然れども支那商は多く小船を所有する、外國商と結合して、共に其所有主となりたれば、汽船の多くは無用に屬したるため、汽船の所有主は一時甚だしき損失を招いたのである、それにも拘らず又或商社の如きは、英米兩國に於て適當なる汽船を注文し、之を以て漸く河江の間を航行し、亦に輕快を覺えたれば是に於て彼のラツセル會社起りて、支那航海會社を設け資本金百萬兩を元入し漸次擴張して遂には百八十七萬五



千兩の資本とあした、是れ支那に於ける汽船會社の創始にして、西中兩國の合資共同せる所である、同社の汽船は専ら米國にて造成せるものであつたが、不幸にして永續せず、遂に全く支那人の購入する所となり、支那人の手に歸するに至つた。此年税關長を設くるの議を定め、エチエヌレイ氏支那皇帝の勅命を以て其職につくべき旨を撰定せられ一月二十一日就任した。

千八百六十二年一月十一日太平賊は、再び不意に吳淞に現はれ來り、爲めに居留地にては大に恐懼し、直に義勇兵及び兵隊の訓練を初め、又所々に防禦線を張り或は土山を築き江を堀り、出來得る丈其防禦を堅固にして、豫め其變に備へた、時恰も上海は大雪にて、殆んど二晝夜も降りつゞき一圓銀世界となり、積むこと三四尺に及んだ、二月の中旬に至り降雪漸々に消滅し太平賊は愈々戦を開いた、英佛同盟軍は活潑なる運動をあして賊と戦ひ、佛國海軍大將プロテツト氏は此時不幸にも胸を打ち貫かれて戦死し、佛國領事館地墓所に之を埋葬した、當時李鴻章も亦支那兵を率ひて共に賊兵を撃ち著しき功績を顯はしたといふ。

此年滯國總稅務司にロバートハート氏就任し、同氏は今日まで四十五年間其職に在り専ら支那に於ける最重

望の一人である。千八百六十三年六月の交に、會審衙門が設立せられ、英領事館の地面内に開庭せられた、又此年中に於て商法會議所が上海不列頓商會より上海商法總會議所の名義に變更したのを見れば英商にあらざる外國商社の數が、上海に増加したのを推知するに足るであらう。

同六十三年に於て上海より吳淞までの鐵路布設を企て龍動商會は蘇州江の上にある橋梁の隣地(今の東和洋行前)より一鐵路を布き、馬車路を沿ふて吳淞に至り、夫れよりガゲンク太山及び崑山をへて蘇州の東門に至らしめんとした、之を鐵路の嚆矢となすのである、鐵路里程は六十二哩にして、該經費は總計貳百拾四萬三百兩の豫算であつた、而して収入額は一ヶ年に付貳拾八萬貳千五百拾兩と定められ、營業費を拾萬八千四百兩と見積り、差引純益拾七萬四千百拾兩即ち一ヶ年に付七分半の割合であつた。

千八百六十四年に於ては、上海の貿易未だ盛大ありとは云ふこと能はざりしも投機的の商業は勢甚だ熾て絶えず山師の商賣が行はれたのである、此年上海俱樂部並に病院も開設せられた、此俱樂部は久しき間かゝりて開設せられ、其構造といひ使用する什器といひ非常

の奢侈を極めたもので、今日の如き完備なる有様には達せずして、到底中途にして廢絶せんと思はれる程であつた、又官立亞細亞協會あるものも此時起つたと云。千八百六十六年に至り、工部局の事務も大に注目留心する所となつた、居留地へ住する支那人に對し課税せんと欲し、居留地規則を制定して之を北京政府にさした。

千八百六十七年即ち慶應三年に於て、上海居留地の状態は、頗る改良進歩するに至り、居留の外人等も以前に比すれば喜んで時勢の變更に應じ、更に愉快と娛樂とを求むるに至つた、即ち花園を造り百卉を植ゆるの事一般に行はれ、較々高堂の快樂をとるの傾きを生じたのである。

今日の所謂公園即ちパブリックガーデンは、千八百六十七年に領事填地と稱して作成せられ、翌年八月八日を以て、之を工部局に交付せられた、パブリックウェル路には住家を建造して人々之れに住居するに至つた而して上海居留地内の公共建物も著しく増加し第一に今の博物院路の外國劇場の新築、第二には會審衙門の開庭、第三には浦東に於ける海員水手の寺院の開基第四にはマセニツクホール(集會堂)を建築せられ、又

瓦斯の如きも此の時居留地一般に引用せられ、街道更に瓦斯燈が出来、警察の効能一層現はれ、空地の區域漸く減じたるため、番人の不要を感じ、之を廢するに至つた、素と此番人は夜間各家の周圍及び他の建物のあたりを巡廻し、手には洋燈をさげ、又大なる竹條を持し時々之をたゞき以て竊盜の見張をあしたものである。

又同年高昌廟に於て軍器製造所を開設した、今の所謂江南器機局即ち是である、太平賊治定の後、即ち千八百六十二年三年の頃、李鴻章は上海に於て軍器製造所を設立すべき事を命ぜしかば之れがため虹口に於て器械店を購入した、然れども此等の建物は、少しく小に過ぎ其目的を達し得なかつたのである、翻つて江南器機局の内部を見るに、同局は支那に於ける最も文明的の工場にして、支配人一名副支配人二名其小役人數名何れも支那人で外國人を其顧問に有して居る日本人では目下工學博士石藤豊八氏が火藥製造の顧問に傭聘せられて居る、支那人の職工は歐羅巴の思想を摘取し、歐羅巴の器機及道具を使用する上に於て、孰れも驚くべき才智を現はして居る、江南器機局は較々高貴の位置に登るべき階段たるがやうである、既に其支配人よ



り、外國へ支那公使として派出せしめられたるもの數人又較々下き位置の者は内外の官職上緊急ある位置に就かしめらるゝのである、目下張道臺が其支配人として之を總轄して居る。

其他は之を略し却説之れよりは、明治初年に入りて我國人が上海に渡航したる以來の事柄につきて、其見聞する所を物語らんか。(未完)

上海便り (第二信)

湯山生

今回は日本人に最も奇異の感を抱かしむる當地の金融事情よつきて申し上げたく候先づ貨幣制度より申し上げべく候清國の貨幣制度は極めて不完全に候兩を以て價格の標準となせども兩に相當する貨幣の存在するにあらざ兩は單に空稱に過ぎずして實際交易の媒介たる物形狀は貨幣と云ふべきも毎日毎時相場を異にするを以て價格の標準となすべからず従つて其の關係の複雑にして統一しがたきは實に豫想外に候又銀貨も日本の如く一定の比價を有せず日常通用の弗銀即ち大洋と小銀貨即ち小洋との間に絶えず其の割合を異に致し居り候而して大洋を十錢銀貨に換算すれば小銀貨十一箇と

一錢銅貨五箇即ち一弗十五仙(今朝の相場)となる譯又十錢銀貨を銅錢に直せば九錢三厘位よしかならざる奇觀を呈し居り候即ち是れ等は完全なる貨幣と云ふべからず従つて支那は今尙ほ物々交換の舊態を維持するものと斷言するを憚らざる次第に候。次ぎに爲替關係を申し上げべく候貨幣制度複雑なるを以て爲替の關係も又複雑に候殊に清國は銀貨國なるを以て銀貨の高低によつて相場の変動を來すこと他の原因の比にあらず且つロンドンの銀相場によつて左右せられ一日數回の變動を見ること勘なからず候而して此の變動は商人の大いに注意すべき事項にして此の注意を怠る時は商品にて大なる利益を得るから爲替にて損失を蒙り爲めに損益償はずして破産するもの時々有之候是れ清國特殊の事情に候されど此危險を避けんがため爲替の豫約(Contract)をあすこと有之候是清國特殊の事情に候銀行側にては餘り好まざる由なるも商人の利益を保護するの要を認め此の特約を簽し商人をして安全なる見積價格の算出に便ならしめ居り候次ぎに爲替相場を立て方を申し上げべく候併し生は商業や經濟の事情に暗き爲め明確に申し上げがたきに付不可解の處は御判讀下され候現今歐米各國宛の相場は彼の

國の相場にて表はし日本宛の相場は兩にて立て居り申候即ち本日(10月)宛參着相場を三志一片十六分の十三とせば日本宛參着相場は六十六兩四分の三の割にして此の際一弗を日本貨幣に換算せば二圓〇七錢となり日本に送金する場合には此の割にて計算する次第に候併し是の相場は前述の如くロンドンの銀塊相場により一日數回の變動を見るが故に相場算出困難なるが如きも比較の表ありて銀塊相場何片ならば何程と直ちに索出し得るを以て實際は多大の混雜を來すことなく爲替相場は又地方通貨の多少によりて變動すること有之候即ち上海の通貨類に内地に流入するときは貨幣缺乏してために爲替に影響を及ぼすこと有之候

次ぎは銀爐の事に候銀爐は彼の三十三年の北清事變よ於て人に知られし馬蹄銀を鑄造する所現今支那に八戸ありて他に之れを起すこと能はざるもの、由に候而して銀爐の證明は其の信用頗る大にして各國の銀貨銀塊も此處にて鑄造し改鑄せられ候又其銀塊を撰擇するや全く肉眼鑑定により馬蹄銀の品位鑑定も亦肉眼によるのみなれども其の肉眼鑑定は頗る熟練したるものよし且つ極めて正確なるもの、内に候かつて銀爐の證明ある馬蹄銀若干を大坂造幣局に送りて精密なる分析試

驗をなせしに其の結果の差は實に微細の小數にて實際上差支を生ずべき程の差は一も之れを認むること能はざりしとの事に候。

終りに於て特に申し上げべきは支那至るところの通商港に跋扈せる買辦(Comprador)に候こは實に惡むべき障害物に候へ其現今は諸種の事業特に銀行に於て亦必要缺くべからざるもの、候前述の如く清國の現金取扱方は頗る複雑にして不慣のもの到底之れに従事すると能はず故に銀行の現金係等は之れを買辦に委任致し居り候元來買辦は使用人に候へ其其收益は單に給料に止まらず其の營業費をも銀行に負擔せしむるに拘はらず全く計算を別にしてコンミツションを收め又現金を融通して銀行の收むべき利益を壟斷致し居り候故に買辦の受くる給料の少なきにも拘はらず其の隨意に雇傭せる部下の給料の如き裕に其の利益中より支出するを得て毫も銀行の干渉を受けず買辦制度のため銀行の利益を減せしめらるゝこと尠少にあらざれども又買辦は各種の責任を負ふて銀行の業務を安全ならしめ且つ各銀行の買辦相互の間に姻戚其他密接の關係ありて互に氣脈を通じ他行金融の内情に熟通し以て業務の圓滑を得る等其の利益も亦多しとの事に候へども清國の發展



上には是非廢止せざるべからざるもの、由に候。

第三信

今回は列國の對清貿易につきて申し上げたく候現今列國の對清貿易は恰も其の殖民地に對するが如くに有之候即ち先づ巨資を投じて支那を啓發誘導し其の生産力を増さしめて後其の購買力の増すを待ち自國生産品を吸収せしめ以て其の前失を償ひ餘りあらしむるが如くに候而して南京通商條約以降六十三年の久しきに渉るも對清通商の未だ觀るべき利益を擧ぐるに至らざるを見て前説の眞なるを解せらるべく候今清國の新聞紙に記しありし昨年度の統計を見るに實に左の如くに候

- △ 清國が諸外國より得たる收益
  - 一、鐵道敷設鑛山採掘費 二七、〇〇〇千兩
  - 二、船舶諸費用 一一、〇〇〇千兩
  - 三、在清公使領事館費 五、〇〇〇千兩
  - 四、在清軍事費 二二、五〇〇千兩
  - 五、教會醫院學校費 六、〇〇〇千兩
  - 六、外人遊歴費 六、〇〇〇千兩
  - 七、在外清人收得金 七三、〇〇〇千兩
  - 合計 一五一、五〇〇千兩
- 同期間に於て諸外國が支那より得たる收益

ものに屬し中世都府經濟時代の交易に彷彿たる有様之れを以て内地に無盡の鑛山無邊の沃野あるも拓く能はずために庶民共に購買力に乏しきが如し是れ其貿易不振の第一因かと存せられ候。」

其の商習慣、度量衡、及貨幣は一市内に於ても區々として一定せるなく又會館公所(歐洲中古の(GUILD)本邦舊幕時代の座の如きもの)に加盟せざるものは事業を營むこと難く特に外國人が此の間に商務を營まんこと甚だ難く候是れ其の第二因なるべく候。」

又清國にては金銀比價の變動頗る劇しくために思はざる禍を蒙り産を破るもの甚だ多く又外人の支那貿易に従ふや其の言語商習慣度量衡貨幣等に通ぜざるため止むを得ず英語に通ぜざる支那人を雇傭して買辦となし一切の買賣を司らしめ居り候併し之れがため買辦等は外國人の知らざるを奇貨とし私腹を肥すに汲々とし爲めに主人の利益は半ば彼等のために壟斷せらるゝに至る是れ其の第三因かと愚考いたし居り候而して外國人も是等の原因のあるところを知り専心之れが排除に努め以て貿易進歩を計りつゝあるも未だ容易に其の根底を交除すること能はざるべしと存せられ候。」

- 一、公債及び償金元利金 四四、二一〇千兩
- 二、運賃保險料 六、七五〇千兩
- 三、在外清國公使領事館費 一、三〇〇千兩
- 四、留學生及び遣官員費 三、〇〇〇千兩
- 五、在清外國人收益金 一六、〇〇〇千兩
- 合計 七一、二六〇千兩

見られよ諸外國が對清貿易をなすま當り收支の相償はざる實は八千万兩以上に達し申し候斯の如く巨額の損失を忍びつゝ猶且つ銳意是れに従事するもの蓋其謀や深く其志や大なるなくんばあらざる次第に候。」

最近十年間列強の支那にありて貿易に従事する店數と人員とは共に倍加し來り貿易額亦約七割二分の増加を示し申し候然れども清國の本位とする銀貨は大勢下落するの傾向あれば銀貨を以て計上するときは少なからざる増加を表すも之れをロンドン宛爲替相場により金貨に換算すれば僅かに二割六分餘の増加に過ぎず斯の如く對清貿易の進歩遅々たるは蓋し大いに故あること存せられ候。」

抑支那内地は交通不便にして釐金の制度(各省にて異率の税を取る法)と盜賊の横行とは更に其の不便を増し主として交易せらるゝ物品は容量小にして價格貴き

の策は先づ交通を便あらしむるに若かざるが如くに候是を以て列國は先づ本國と支那間及び支那各港間の航路を創めて水上の交通を便にし長江(長江とは揚子江のことなり)航路の如き汽船の運輸略完備し其の運賃「ジャンク」と大差あきに至り申し候而して之れに次ぎて其の領土より支那内地又は重要なる通路に鐵道を敷設せんとし支那官民は鐵道の悉く列強の手に歸するを恐れ又争ふて之れが敷設を初めしたため今や鐵道敷設熱支那に蔓延致し居り候故に此の分よて十年も経過せば是等の鐵道約一萬哩に下らざるべく陸上の交通も亦略備はるに至らん然れども清國にして依然釐金の制度を廢せず盜賊の横行舊時の如くんば交通の利益も爲めに全功の一半を沒せらるゝに至るを以て列強は水陸に軍備を存して之れが勦滅を期し通商條約の締結毎に釐金局の廢止を促し居り候而して若し此の二害全く排除されたらんには其の交通の便優に英領印度に匹敵するからんと存せられ候。」

然れども支那人は概ね薄資拙技に候即ち生産業の進歩を計るは至難にして外人の力と財とを借らざるべからず外人も亦其餘れるを以て支那内地の採掘業其の他の工業を營むよ努め以て此の目的を達せんがためには



鐵火をも辭せざる意氣込なるを以て支那官民の心あるものは利權の他に移れるを恐れ銳意資を集め力を協せて採鑛製造の二業を營むに至り候。」

思ふに是等産業は交通の發達と共に益々榮ふべく交通機關完成の曉には今日の面目を全然改むるに至らんか今や諸外國が支那貿易の進歩を容易ならしめんとせば須らく諸種の障害を排し諸般の設備をあして其の進路を拓かざるべからず而して列強は新條約を締結することとに支那度量貨幣及び商習慣の統一を促し或は金貨本位を採用せんことを迫り其他百般の事情に通せんがために佛國は先づ支那通商調査局を興し各般の専門家を派して深く内地に入らしめしが其の報告は對清貿易上好結果を奏せしかば獨英米の諸國亦之れに倣ふに至り又是等の目的を以て先づ其の國民に支那語を學ばしめしかば我國を始め英獨露人等の支那語に通ずる者少からざるに至り殊に邦人間にては買辦を廢せんとするものさへあるに至り候。」

以上の如く列強が對清貿易の進歩上企畫する所實に尋常の手段にあらずして恰も英の印度濠州佛のアルゼリヤ印度支那等我邦の朝鮮に於けるが如き態度にて百年の後を期せるが如くに見ゆ申候然らば是等計畫の結

果は如何あるべきか餘素より經世家にあらずと雖も思ふに清國は名實上の專制國なれども事實は然らざるが如くに候即ち假令政府が法を定むるも地方同志者の同意なくんば即ち行はれず商業上の事項も亦之れを會館公所に諮らざれば其の効なく而して會館公所は自家獨占の便宜上故らに其制度の複雑を望みて統一を肯ぜず殊に清國の貨幣制度は特殊の事情ある等のために那邊は歸着するや未だ斷言する丈の判斷力なきを悲しむ申し候。」

然れども謂ふに會館公所廢れ普通の商業會議所又は同業組合と變じ度量衡商習慣及び貨幣の統一せらるゝは二十年後との瞻望金は支那政府の重要なる財源として其の國庫の空乏甚しき今日之れを撤去せんことは當分難かるべく列強が從來の買辦を廢して自ら商務を當らんことも亦日獨を除くの外前途猶遠なるべきか然れども洋式の銀行保險倉庫等の商業機關は年を追ふて整頓し鑛山其他の製造業は交通機關の發達と共に進歩すべければ列強は十年の後對清貿易の面目を一新せんこと必定あるべく因つて以て從來の失費を償ひて餘りあるに至らんされど支那は之れと共に利する所あるや否やは大い疑をいだかざるべからざる事候。」

特ニ踴躍せる日比谷屋頭に蛙鳴蟬噪する四百の頭顱も向つて大い覺醒せしめたき次第候。」

今や支那は列強の刺激を被りて漸く覺醒し利權を回復し諸般の設備を整へんとするも資乏しくして之れを外國より仰がざるべからず假令内國の資を集め得たりとするも管理法拙よして維持難く外國航路は既悉く外人の掌裡もありて内國航路は唯一の招商局あるも日清漁船會社の出來したため外人の是れを對抗する必要より先月買収され山東山西河南貴州雲南及び滿洲等礦山を以て名あるものは既概ね列強のため其の採掘權を奪はれ諸種の製造工業は外人の創始する所となり支那自ら之れを興さんとするも資乏しく技に拙なる等到底其の成功を望むべからず銀行保險業等も亦二三の外悉く外人の手にありて支那特有の利己心は市場販賣には或は適せんも會社事業等には全く失敗の原因ならんか無學なる彼等は銀行等の商業機關を利用するなく海外は勿論内國の事情だも暗き彼等は日本以外直輸出をなす能はずして擧げて外人の手に有之候。」

故十年の後支那貿易の面目一新せらるゝの頃は貿易其の他百般の經濟事業の權全く外人の手落ちて支那は唯列強の利權を扶殖するの好殖民地たるの姿に至らんか豈東亞將來のため長大息せざるべけんやと悲觀したきも生は寧ろ刻下邦人の緊揮一番を希望するもの

奇特なる教員 足柄上郡尋常高等福澤小學校は本年四月不慮の火災に罹り校舍全部焼失したるを以て應急手段として村の避病院に大消毒法を行ひて之れ尋常科四學級を又二階建民屋一戸を借受け之を高等科三學級を收容し教授せるが教室は粗雑にして到る處床下を露出せる板の間に荒蓆を敷き村内有志者の寄附にかゝる石油箱を臺とし其の上に怪しげなる松板を並べて机に代用し児童を安坐せしめて授業をせり特に尋常科の如きは假校舍の構造上止むを得ず燒失校舍の屋根に使用せし亜鉛板を以て隔壁となし天井は葦簀を以て之を蔽ひたる二間に四間の教室に五十八乃至六十人の児童を收容せることゝて教場内は恰も児童の酢をつけたる觀あり而も換氣は遺憾なく行はれつゝあるを以て初夏の候比較的空氣の不潔なることなきと同時冬季防寒に困難あるは想像に難からざるなり此の如く設備の諸般は教授上管理上不便不都合を以て満たさるゝも拘はらず教師は毫も不平を訴ふることもなく諄々として教へて倦まず又爲に他に轉せんとするが如き輕薄者



もなく孰れも復舊事業を自己の責任と覺悟し地圖掛圖類の如き教授用具も教員の手製に拘かる者多く又諸帳簿類の如き材料蒐集に非常に困難を來したるにも拘はらず職員一致協同之に當りたるを以て本年七月初旬に於て全部調製了り一點の不備なきに至れり以上の有様なりしを以て第一學期中は授業上種々の障害ありしも幸に教科の進度は毫も遅るゝことなく又兒童の成績も他校より比し却て優良の點少なからず特ニ訓練の如き稀に觀る良習慣を養成しつゝありと云ふ而して此奇特なる教員は校長佐藤常吉氏を始め訓導鈴木七藏、西山辨造、鈴木濱次郎、木内立孝、加藤トシ、加藤ソエ、鳥海ヨシの數氏ありと云ふ

●同窓會の活動 足柄上郡尋常高等南足柄小學校同窓會は同校高等科卒業生を以て組織し年長者は已又一戸の主となりたる者ありて隠然村内に勢力を有し若衆の牛耳を執り陰に陽に學校の爲に後援をなし校舎増築の時の如き土工の全部を勞力と日子とを吝まらず報恩的に寄附せるか如き村内五ヶ所も開かるゝ實業補習學校入學の勧誘は勿論入りては授業を補佐するが如き學校樹栽林の植付を補助するが如き自ら奮て學校基本財産蓄積の爲めに各戸より應分の玄米寄附を請ひ之れが取集

めまでの勞を採れるが如き其他學校に於て臨時の事業をなさんとするときは之れが補助者となるが如き同郡中稀有の活動をなせりと云ふ

●職員生徒の勞力より成れる運動場日覆 足柄上郡尋常高等南足柄小學校に於ては從來運動場日覆の設けかかりしが本年は左の方法を以て百餘坪の日覆を設けたりと云ふ

一杉丸太及竹等の材料は村内五六の篤志者の寄附を請ひ之れが運搬は職員指揮の下に高等科男生之に當り一里餘ある山中より終業後搬出す

一日覆に供する麥稈は各兒童の家より小束一把乃至三把を持參せしむ

一繩は尋常四年以上の兒童をして一房乃至二房を持參せしむ但し兒童各自が綯ひたる者

編輯所便り (前號の分)

左 遷 氏

秋冷の折柄各位益御勇健の段欣喜雀躍の至り堪はず候、さて小生事此度新に此所に打つて出づる事に相成り候が老耄に近き左遷氏の到底先賢諸子の如き瀾腕振ふべくもあらず候へども、瘡せても枯れても日本男子

此儘よひつこむも存じ茲に摺木的の筆を振つてよじり書いたす事と定め候。

前號に於て御報知申し置き候体操會の儀は去んぬる十日五日、いよゝ本校運動場に於て舉行いたし候に付今其順序及び運動の概略を御知らせいたすべく候、

体操會順序

- 一、開會の辭
- 二、普通体操
- 三、スクーティング
- 四、旗送競争
- 五、普通体操
- 六、旗送競争
- 七、ソシヤープル
- 八、啞鈴送り競争
- 九、兵式徒手体操
- 十、旗送競争
- 十一、普通体操
- 十二、カレドニアン
- 十三、講評

- 高一男
- 高三四女
- 高一男
- 高一二女
- 高三四男
- 單級一三三
- 高一二女
- 高一二女
- 高三四男
- 單級四五六
- 高三四男
- 高三四女
- 終り

清楚なるあり艶麗なるあり、やがて響く鈴の音も四面一時肅として水をうちたる如くに相成り候茲に主事は開會の辭「風は埃をたてる程には吹かず、空にはうつすらと窓掛をしまして、餘り暑くもなく寒くもなく誠によい氣候の時よ、第一回の体操會を開きます」と前置せられ、尙ほ「体操會を開く目的は、一、日々熱心で稽古せる体操を公然とふるまひて、其優良なる處を人に見せ足らざる處あれば、之につきて、批評を仰ぐこと、二、諸子の日々熱心よなせる体操は、諸子若しくは、其級のものより他は知らず、夫れよては、如何に活潑なる体操やちもしろき遊戯を他の級よてあし居るか少しもわからずそれを斯く一同の眼の前よてすれば他の人も能く他の体操や遊戯が知れて甚だ愉快な事と思ひます」を簡潔に述べ終られ候。

時こそ來れど勇みよ勇んで出でたるは高一男、川崎教生指揮して教壇よ立ちたるが意氣昂然排列終りて運動を始めたるが聲は清く高く、さきの窓掛をも引きさかかん勢兒童もさるもの、尋常科を卒へたるばかりの姿其儘なれど、中々に敏ありき、中途よして模範はやみ、號令のみよりて一上一下、拍子け手によりて確なり筋骨相觸れて響く音のかすかなるよスエーデン式の本



色を予あらはし申候、教程正しく順序紊れず眞面目に運動を終りて第二も出ては尋三四女あれ〜と見る間も教壇近く圓陣を作り候、樂器と共に嬌たる姿ならぬと天真のまゝにて働き出したるはスケーターチングの初めの曲、袖は長き短き赤き白きどり〜なれど歩調の紊れたる所少しも見えず今春やう〜足を入れたるものとしては中々に優なるものと見受け申し候。次は尋常一學年昨日今日學校で小ものを覺れたるもの、無論足は揃はず眼は定まらず、思ひ〜の振舞なれど胸を太く張り出て大手を振り〜進み來る様は如何にも天真爛漫、教師は、「二二〜」の呼稱よて之も中々の面白しさう、「ピー」の笛よて互もかけ出せば、「青ダ〜」「赤ダ〜」と嘶しあがら己の組も聲援せる様誠に見事よて一同哄々齒の見えぬものとはなき有様候ひき、勝た人負けじと互も勵みたりしが憐ひべし青は二人の負と相成り候。指揮者の赤勝つた、青負けつた〜と唱ふれば互に復「勝つた」「負けつた」とはやしたて少しの誇る色もなく愧づる色もなかりし悠々として其あどけなさを思ひやられ候。

第五回は高二男の普通体操小島教生之れが指揮に當られたるが同學年の教程によりて順次進行、勇壯活潑鬼

三步四列横隊に集れ〜集合頗る迅速排列は出来ぬ。指揮者はなだる原木教生、號令嚴明説明、模範一として間然せざるなし。勇將のものと弱卒なしとやら、など兒童に、弱の者の候べき。勇壯猛邁能く武勇の風をあらはし申し候。

神を驚かすの意氣はなくも轉々自在號令のまに〜削り取りたるが如きところあるは之れ正しくスエーデン式の特徴ともいはずほしく候。六回は單級一二三組今が初陣といふ輩もあれば老功大人を氣取るもあり互に堅く口を締めて來りしが、忽ち左右に別れて競ひ始めしは、赤と白との旗送り、今を先途と鏑を削りて戦ひしが天晴勝は白の手に歸しぬ。源地の舊地さもあるべしと豫期はいたし置き候もの、

第七回、さし高一二の女足元靜に運び來りしが、マーチと共に準備は終へ見るまゝ遊戯は始まりぬ。右になり左になりはなれつ合ひつ散りつ碎けつ而も禮儀正しきンシヤノブル。流麗たる扮裝に長閑き舞、朗なる曲と相和して此ほがらかなる秋日和よ一段の花をさかせ申し候。

「クルマヲヒキテノポリユクサカハアブナシユダンスナ」と拍子取りつゝ出で來れるは今や啞鈴送りをせんどの尋二なり。男女各一列つゝを一組となし愈競争と相成り候が女子は手より手を送り男子は股下を運ぶこの男子の送り方や頗る妙にして拍子の音に大臣山も緩ぎやせざるかと感ぜられ候。

威手莊嚴よ出て候は高三四男「分れ進め」「距離間隔

編輯所便り

新 人

一、發行遅延、本誌第卅一號の發行は編輯上の都合により、大に豫定の期日に後れ候段、恐縮之至と御座候。  
二、編輯員の異動、三十八年以來、附屬小學校に在りて、本誌編輯の任に當られ候、武進太郎氏は、今回横濱市壽小學校に轉任被遊候、その後任者として倉田八十八氏、石川小學校より來られ候、一人は横濱に出ててその活腕を振ひ、一人は横濱より來りて、その主張を説く、從來頗る疎遠なりし本誌と横濱と、以後これがために、其關係の密なるを得ば、幸甚不遇候。  
三、附屬小學校近況、第一回學藝會は十一月十六日正午より開かれ候、兒童及び職員、談話、朗讀、對話唱歌、及び理化の實驗等、前後通じて四十回、趣味津津として盡きざるほどに三時間を経過いたし候、此日生憎細雨ありしも、保護者の參觀多くして設けの席の足らざるを覺えし、本校の大に光榮とする所に候。



同文館最新刊教育書類

東京市神田區表神保町二番地

東京高等師範學校教授 大瀨甚太郎先生 共著  
 京都市視學山松鶴吉先生 共著

講習用書 小學校教育法

上製全一册 定價七拾八錢  
 郵稅金八錢  
 (紙數二五〇頁)

高嶋平三郎先生 共著  
 富永岩太郎先生 共著

體操遊戲法精義

上製全一册 定價壹圓八拾錢  
 郵稅拾六錢  
 (紙數六〇〇頁)

緊急廣告 第六年小學校教科書

科學及講師 完結期(四十一年)初號より取揃(注文に應ず)

▲教授法概論	▲國語科	▲算術科	▲修身科
▲地理科	▲手工科	▲圖畫科	▲音樂科
▲理科	▲體操科	▲英語科	▲美術科
▲唱歌科	▲理科	▲歷史科	▲理科
▲論說及雜算	▲趣味と實益に滿つ	▲理科	▲理科

森岡高師教授 ▲修身科  
 市川高師教授 ▲算術科  
 東女高師教授 ▲圖畫科  
 岡山高師教授 ▲英語科  
 小村高師教授 ▲歷史科  
 田村高師教授 ▲理科  
 安藤高師教授 ▲理科

大賣所 勉第弘 強有集 堂堂

稟告

- 一 本誌は毎月一回五日發行とす
- 二 本誌一冊の紙數は約六十頁とす
- 三 本誌の編輯質疑及交換に關する通信は左記編輯所より宛て御送附ありたし

神奈川縣師範學校附屬小學校内  
 神奈川縣教育會雜誌編輯所

- 四 本誌の購讀及廣告に關する通信は左記發行所より宛て御送附ありたし

神奈川縣橫濱市本町一丁目三番地  
 神奈川縣教育會事務所

- 五 本誌は大に讀者諸君の投稿を歓迎す
- 六 質疑は成るべく郵便端書を用ひ且「質疑」と朱書せられたし
- 七 本誌原稿のべ切は毎月十五日とす

明治四十年十二月二日印刷  
 明治四十年十二月五日發行

發行所 神奈川縣橫濱市本町一丁目三番地  
 神奈川縣教育會事務所

發行兼編輯人 高木計太郎

印刷人 鈴木斧太郎

所 橫濱市本町六丁目八十二番地  
 橫濱活版舍

受入番号	20127
受入年月日	昭和8.8
受入先	印刷
受入格	印刷



